鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（9）

一般国道２２０号鹿屋バイパス建設に伴う発掘調査報告書（Ⅷ）

西丸尾Ｂ遺跡

１９９４年　３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

序　　文

この報告書は、国道220号鹿屋バイパス建設に先立って、平成4年度に鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施した西丸尾B遺跡の発掘調査の記録です。

西丸尾B遺跡からは、旧石器時代から古墳時代にわたる時期の遺構・遺物が発見され、多大の成果を収めました。

なかでも、縄文時代早期の前平式土器は本県における考古学研究の貴重な資料として注目されています。

本書は南九州の古代文化解明の一助となるとともに、文化財保護や学術研究の分野において活用していただければ幸いです。

終わりに、調査にあたりましてご協力いただいた建設省九州建設局大隅耕地事務所や関係者の方々並びに地元の皆様に心から感謝いたします。

平成6年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

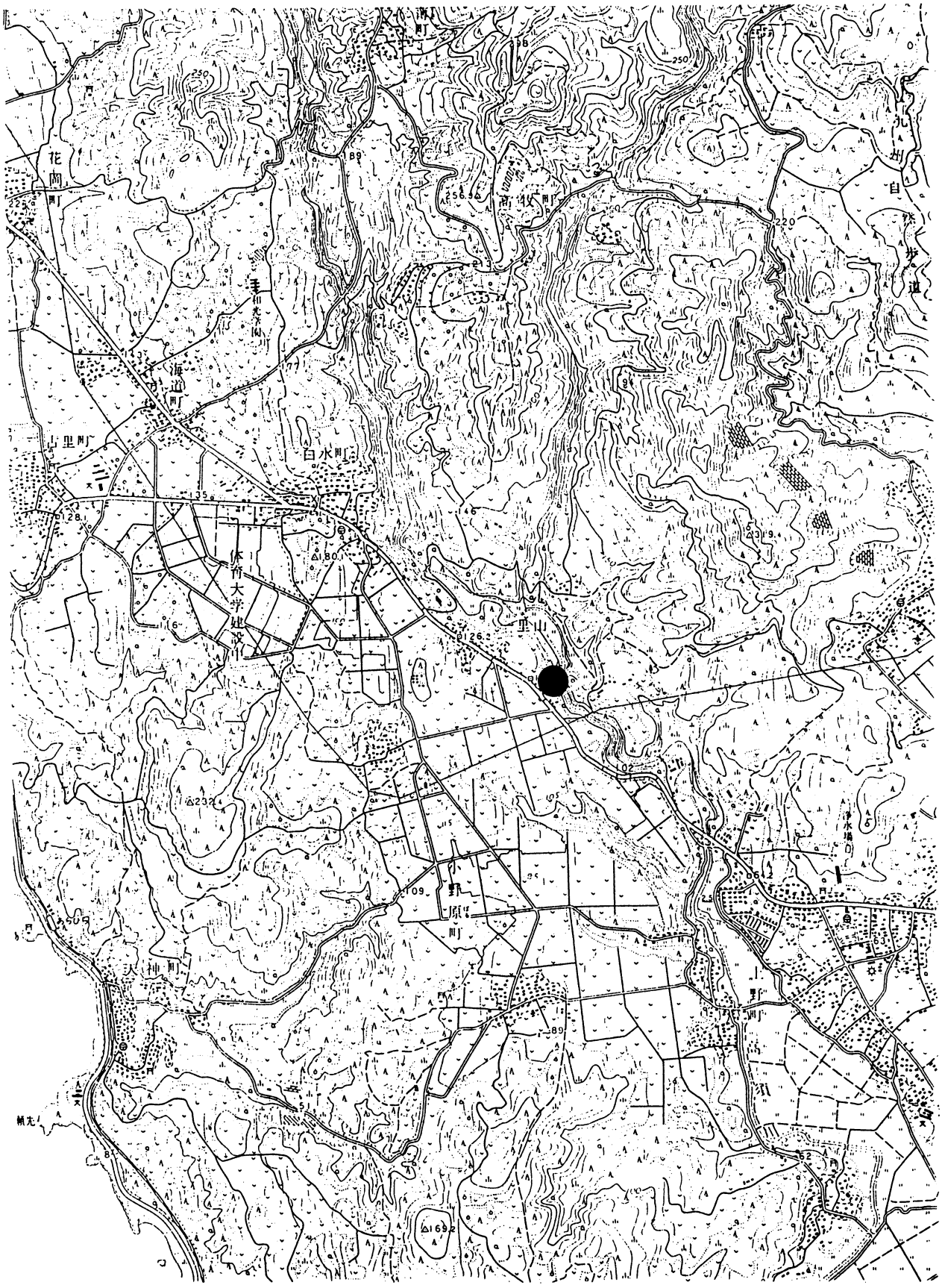
所長　大久保　忠　昭

報告書抄録

ふりがな	にしまるおBいせき
書名	西丸尾B遺跡
副書名	一般国道220号線鹿屋バイパス建設に伴う発掘調査報告書
巻次	8
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第9集
編著者名	湯之前尚・関明恵
編集機関	鹿児島県埋蔵文化財センター
所在地	〒899-56 鹿児島県姶良郡姶良町平松6252番地 TEL 0995－65－8787
発行年月日	西暦 1994年 3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
西丸尾(にしまるお)B	鹿児島県(かごしま)鹿屋(かのや)市白水(しろみず)町	46203	40	30度23分30秒	130度45分40秒	19920602～19920717	2000	一般国道220号鹿屋バイパストラックスケール建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西丸尾(にしまるお)B	包含地	旧石器 縄文早期 古墳	土坑 1基 集石 2基	石器（剥片） 土器 前平式 石坂式 石器 石皿・石斧 など 土器 成川式	



付　図　西丸尾Ｂ遺跡位置図（25,000分の1）

例　　言

1．本報告書は一般国道220号鹿屋バイパス建設に伴う西丸尾B遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．発掘調査は建設省九州建設局大隅工事事務所からの受託事業として鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施した。

3．発掘調査及び報告書作成については、鹿児島県文化財保護審議会委員河口貞徳氏の指導助言を得た。

4．本報告書は、上記の方々の指導助言を得て鹿児島県立埋蔵文化財センターが行い、執筆は湯之前尚と関明恵が行った。

5．出土遺物の整理復元作業等は鹿児島県立埋蔵文化財センターの整理作業員が行い、遺物の実測・製図・写真撮影・編集については、湯之前関が行った。

6．本書に用いたレベル数値は海抜絶対高である。本書の遺物番号は本文挿図・図版と一致する。

7．出土遺物の管理・保管は、鹿児島県立埋蔵文化財センターで一括して取り扱っている。

本　文　目　次

第Ⅰ章　調査の経過 …… 1
　第１節　調査に至るまでの経過 …… 1
　第２節　確認調査 …… 1
　第３節　緊急発掘調査及び報告書作成 …… 6
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 7
第Ⅲ章　発掘調査 …… 12
　第１節　調査の概要 …… 12
　第２節　層序 …… 12
第Ⅳ章　旧石器時代の調査 …… 16
　第１節　調査の概要 …… 16
　第２節　出土遺構遺物 …… 16
第Ⅴ章　縄文時代早期の調査 …… 17
　第１節　調査の概要 …… 17
　第２節　遺構 …… 17
　第３節　出土遺物 …… 17
第Ⅵ章　古墳時代の調査 …… 35
　第１節　調査の概要 …… 35
　第２節　出土遺物 …… 36
第Ⅶ章　まとめ …… 37

挿　図　目　次

西丸尾Ｂ遺跡位置図
第１図　確認調査のトレンチ配置図 …… 2
第２図　トレンチ土層断面図（1） …… 3
第３図　トレンチ土層断面図（2） …… 4
第４図　トレンチ内出土遺物実測図 …… 5
第５図　周辺の遺跡 …… 9
第６図　西丸尾Ｂ遺跡の地形及びグリッド配置図 …… 13
第７図　土層断面図（1） …… 14
第８図　土層断面図（2） …… 15
第９図　土坑及びⅦ層出土石器実測図 …… 16
第10図　Ⅴ層遺構配置図及び遺物出土状況 …… 18
第11図　集石１・２号実測図及び集石内出土土器 …… 19
第12図　Ⅴ層土器出土状況実測図 …… 20
第13図　Ⅴ層出土土器実測図（1）Ｉａ・Ｉｂ類 …… 21
第14図　Ⅴ層出土土器実測図（2）Ｉｃ・Ｉｄ類 …… 22

第15図　Ⅴ層出土土器実測図 (3) 胴部 ……23
第16図　Ⅴ層出土土器実測図 (4) 底部 ……24
第17図　Ⅴ層出土土器実測図 (5) Ⅱ類 ……25
第18図　Ⅴ層出土土器実測図 (6) Ⅱ類 ……26
第19図　Ⅴ層出土土器実測図 (7) Ⅲ類 ……27
第20図　Ⅴ層出土石器実測図 (1) ……29
第21図　Ⅴ層出土石器実測図 (2) ……30
第22図　Ⅴ層出土石器実測図 (3) ……31
第23図　Ⅴ層出土石器実測図 (4) ……32
第24図　Ⅴ層出土石器実測図 (5) ……33
第25図　Ⅱ層出土土器実測図 ……35

表　目　次

附　表　報告書抄録
第１表　周辺遺跡地名表 (1) ……10
第２表　周辺遺跡地名表 (2) ……11
第３表　Ⅴ層出土土器観察表 ……27
第４表　Ⅴ層出土石器観察表 ……34
第５表　Ⅱ層出土土器観察表 ……36

図　版　目　次

図版１ ……38
図版２ ……39
図版３ ……40
図版４ ……41
図版５ ……42
図版６ ……43
図版７ ……44
図版８ ……45
図版９ ……46
図版10 ……47

第Ⅰ章　調　査　の　経　過

第1節　調査に至るまでの経過

昭和53年、建設省九州地方建設局は、一般国道220号鹿屋バイパスの建設を計画し、工事区内の埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育委員会に照会した。

これを受けて、鹿児島県教育委員会は、計画路線内の笠之原～祓川地区については昭和54年度に、大浦・郷ノ原地区については昭和59年度に、郷ノ原・白水地区については昭和62年度に分布調査を実施した。その結果、発見された遺跡については、建設省大隅工事事務所と鹿児島県教育委員会との協議に基づき鹿児島県知事と委託契約を結び、工事前に埋蔵文化財の確認調査及び緊急発掘調査を実施することとなった。調査は受託事業として、鹿児島県教育委員会が行なった。

笠之原～祓川地区については「王子遺跡」・「西祓川遺跡」・「薬師堂遺跡」を昭和56年から同59年にかけて発掘調査を実施した。

大浦・郷ノ原地区については「中ノ原遺跡」・「中ノ丸遺跡」・「川上遺跡」・「榎田下遺跡」「前畑遺跡」・「中原山野遺跡」を昭和60年から平成2年にかけて発掘調査を実施した。

郷ノ原・白水地区については「榎崎Ａ遺跡」・「西丸尾遺跡」・「飯盛ケ岡遺跡」・「榎崎Ｂ遺跡」を昭和63年から平成3年にかけて発掘調査を実施した。以上を以て一般国道220号鹿屋バイパス本線部分の埋蔵文化財の発掘調査は終了した。

平成3年、九州地方建設局は、一般国道220号鹿屋バイパス建設工事の一環として鹿屋市白水町にトラックスケール建設を計画し、計画地内の埋蔵文化財の取り扱いについて鹿児島県教育委員会と協議を行なった。

その結果、埋蔵文化財の性格及び広がりを確認するための調査を実施することになった。確認調査は建設省からの受託事業とし、平成3年度に鹿児島県教育委員会が行なった。

確認調査の結果、縄文時代早期の遺物が確認されたため、建設省大隅工事事務所と鹿児島県教育委員会の協議が行なわれ、事業の推進と埋蔵文化財の保護を図るため発掘調査が行なわれることになった。

そこで、建設省大隅工事事務所と鹿児島県知事との間で発掘にかかわる委託契約が結ばれ工事着手前に発掘調査が行なわれることとなった。

発掘調査は、平成4年6月2日から平成4年7月17日まで実施した。報告書作成は平成5年度に行なった。なお、平成4年4月に鹿児島県立埋蔵文化財センターが設立されたため、発掘調査及び報告書作成は当センターが行なった。

第2節　確　認　調　査

1　調査の組織

事業主体者	建設省大隅工事事務所		
調査主体者	鹿児島県教育委員会	教育長	大田　務
調査責任者	〃	文化課　課長	向山勝貞
企画担当者	〃	〃　主任文化財研究員	

			兼埋蔵文化財係長	吉元正幸
調査事務担当者	〃	〃	主幹兼企画助成係長	濱崎啄也
	〃	〃	主査	枇杷雄二
	〃	〃	〃	下園勝一
	〃	〃	主事	新屋敷由美子
調査担当者	〃	〃	埋蔵文化財係 主査	青崎和憲
	〃	〃	主事	児玉健一郎

2　確認調査の概要・結果

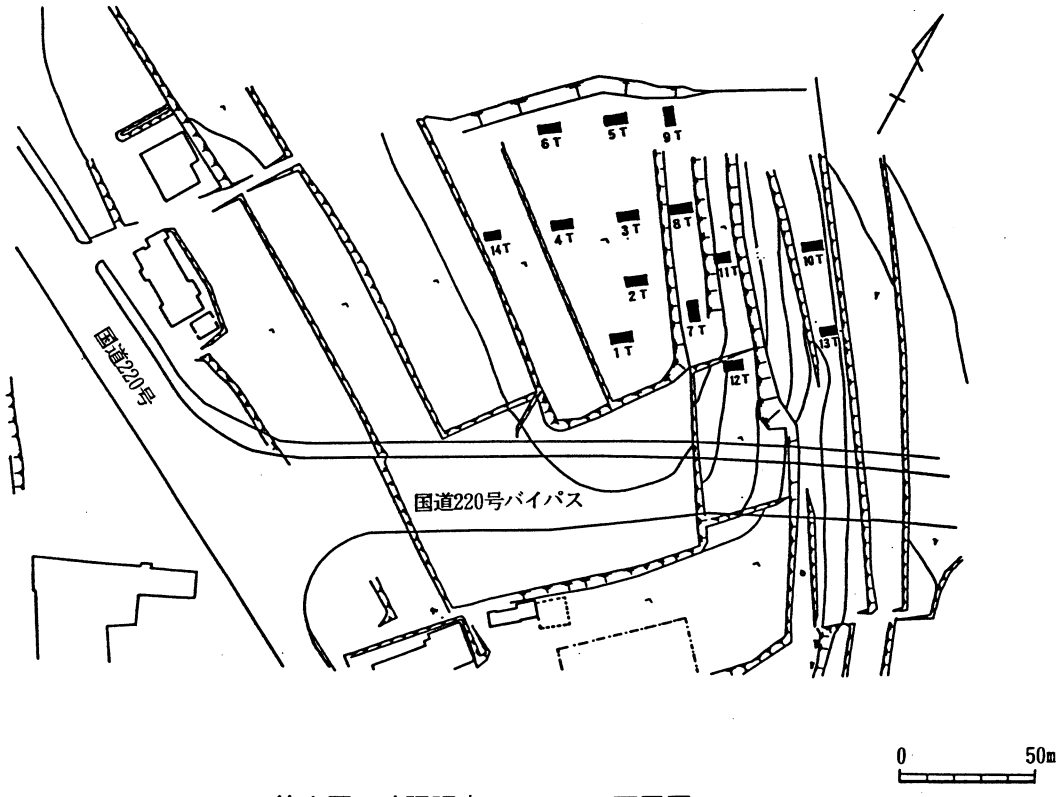
確認調査は、遺物の散布がみられた工事計画地内に2m×4mを基本とする14箇所のトレンチを設定して行なった。

縄文時代早期の遺物包含層（V層）はすべてのトレンチで検出された。1～6・14トレンチを設定した平坦面にほぼ水平な堆積が認められ、前平式・下剥峯タイプの土器や敲石等が出土した。7～9・11・12トレンチでは遺物包含層が東方に急傾斜して堆積しており、打製石斧と1～2点の流れ込みと思われる土器が出土した。

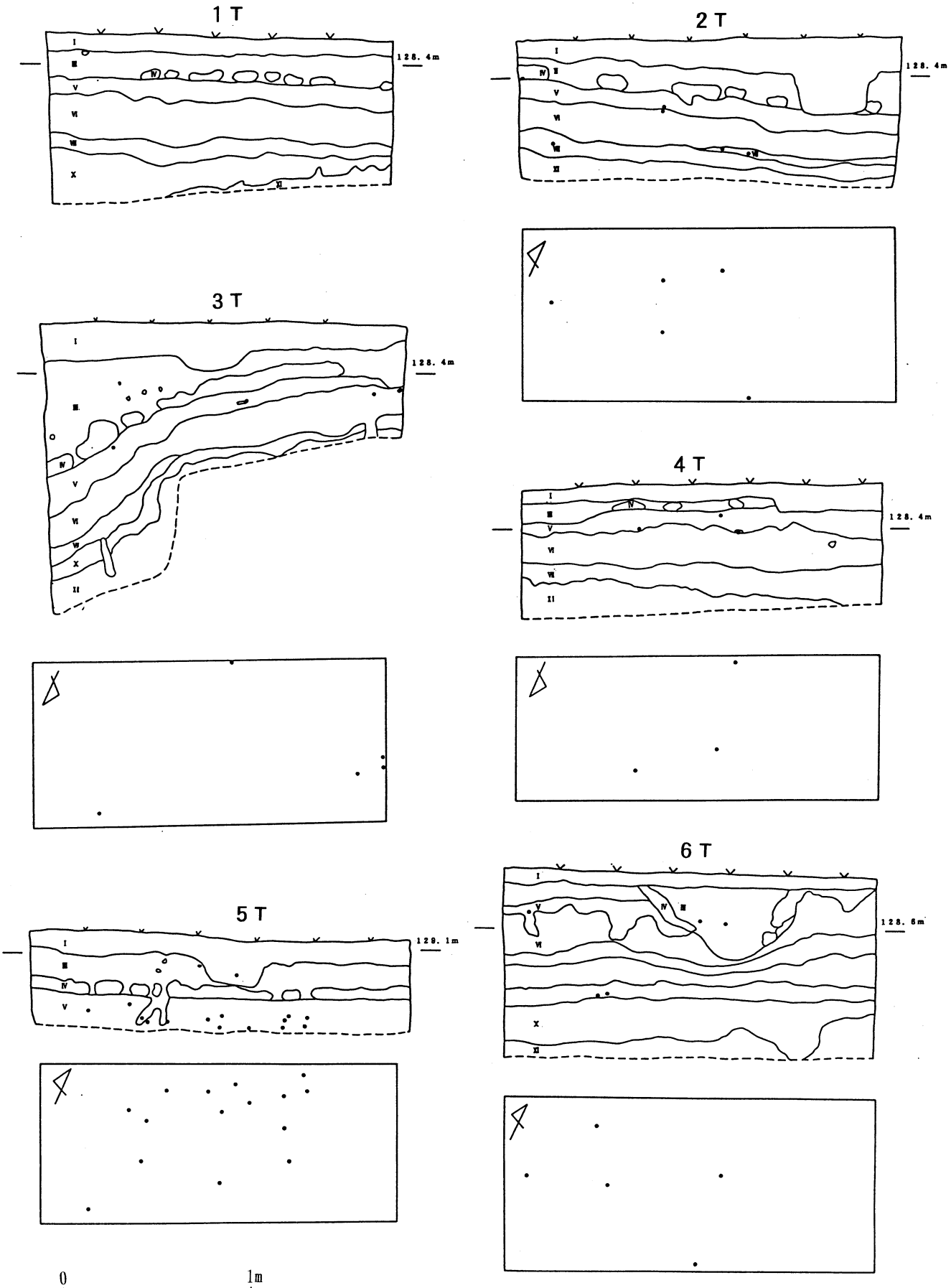
旧石器時代の遺物包含層（Ⅶ・Ⅸ層）は10・13トレンチで認められたが、Ⅸ層から遺物が1点出土した。

これらのことから、縄文時代早期の遺物包含層は1～6・14トレンチを設定した平坦部分に広がっているとともに旧石器時代文化層は工事予定地よりも東側であることが推測される。

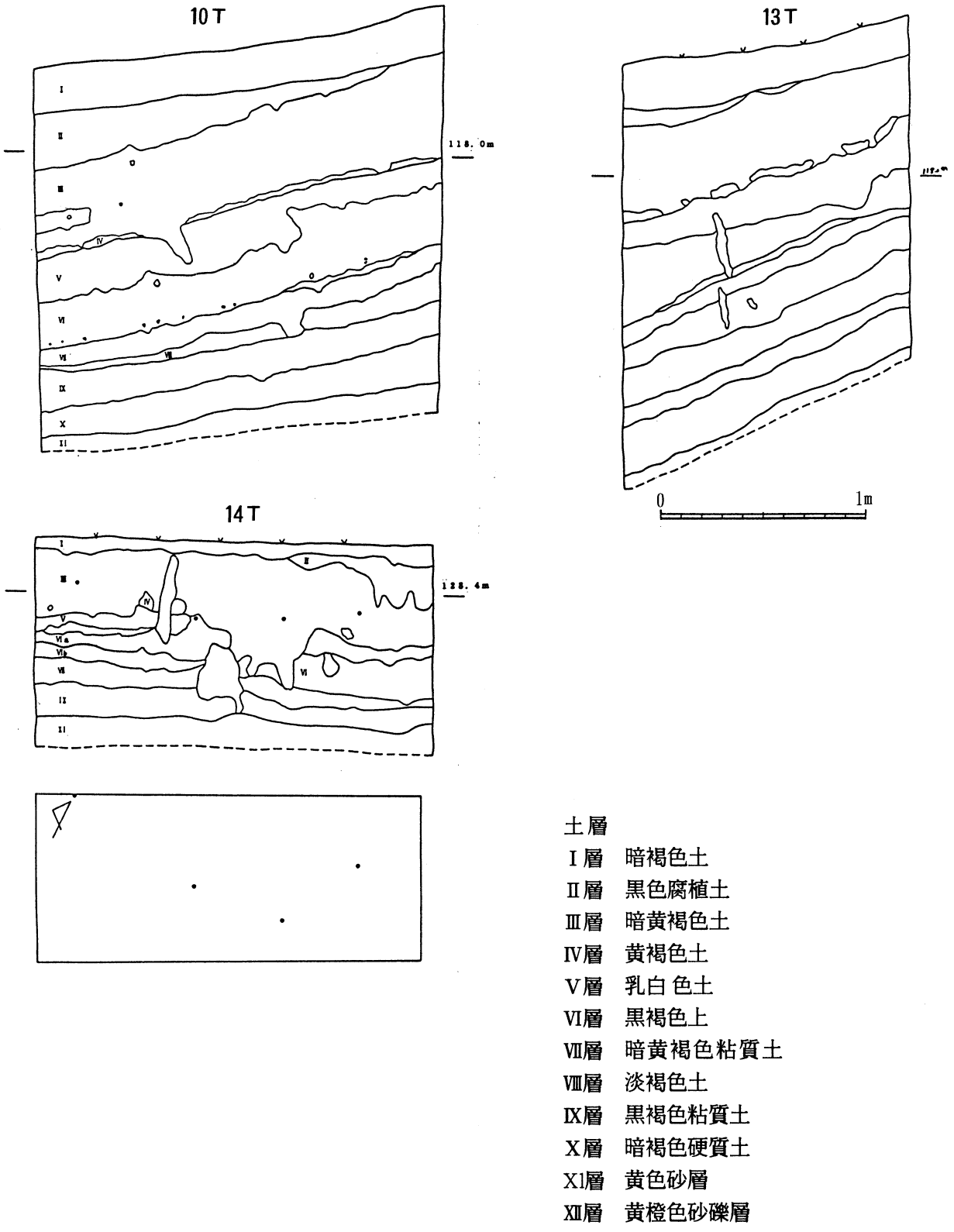
よって、工事区内の遺物の出土した部分については、緊急発掘調査を行なう必要がある。



第1図　確認調査のトレンチ配置図



第2図　トレンチ土層断面図（1）

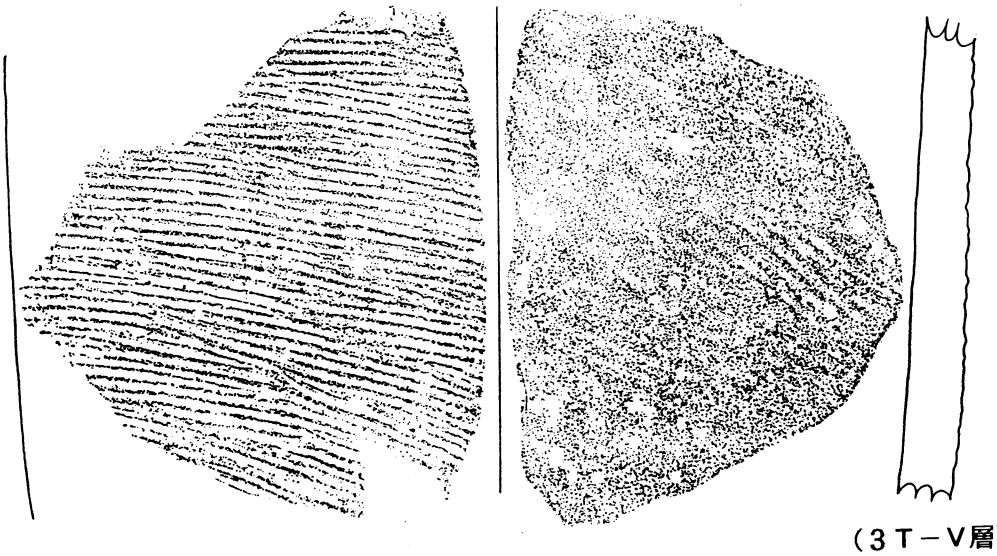


土層

Ⅰ層　暗褐色土
Ⅱ層　黒色腐植土
Ⅲ層　暗黄褐色土
Ⅳ層　黄褐色土
Ⅴ層　乳白 色土
Ⅵ層　黒褐色上
Ⅶ層　暗黄褐色粘質土
Ⅷ層　淡褐色土
Ⅸ層　黒褐色粘質土
Ⅹ層　暗褐色硬質土
Ⅺ層　黄色砂層
Ⅻ層　黄橙色砂礫層

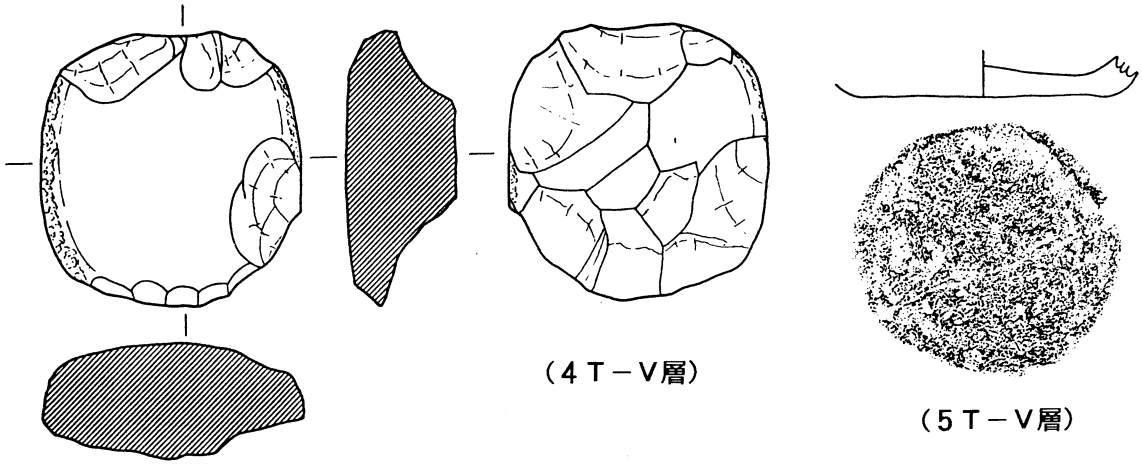
詳しくは第Ⅲ章第２節層序を参照のこと

第３図　トレンチ土層断面図（２）



（３Ｔ－Ｖ層）

（３Ｔ－Ｖ層）

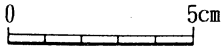


（４Ｔ－Ｖ層）

（５Ｔ－Ｖ層）

（５Ｔ－Ｖ層）

（６Ｔ－Ｖ層）



第４図　トレンチ内出土遺物実測図

第3節　緊急発掘調査及び報告書作成

1　調査の組織

調査主体	鹿児島県教育委員会		
調査企画・調整	鹿児島県教育庁文化課		
調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所長	大久保　忠　昭
調査企画者	〃	次長兼総務課長	水　口　俊　雄
	〃	主任文化財主事兼調査課長	戸　崎　勝　洋
調査担当者	〃	文化財主事	中　村　耕　治（平成4年度）
	〃	〃	井ノ上　秀　文　〃
	〃	〃	宮　田　栄　二　〃
	〃	文化財研究員	鶴　田　静　彦　〃
	〃	〃	湯之前　尚（平成4･5年度）
	〃	〃	関　明　恵　〃
調査事務担当	〃	主査	下　園　勝　一（平成4年度）
	〃	〃	成　尾　雅　明（平成5年度）
	〃	主事	中　村　和　代
発掘調査指導者	鹿児島県考古学会	会長	河　口　貞　徳

発掘作業員　野元為行　森山進　垣内義則　立本末盛　塩満輝夫　山口益夫　郷原秀行　野元ツルエ　長友ツル　野元フジ子　野元サナエ　垣内ムツ子　本白水ナツエ　瀬戸口ノブ　田中トミ　上橋イクエ　森山キリエ　本白水ユミ　本白水ノシエ　本白水フミ　垣内キヨ子　川崎サエ子　立本ミヨ子　小薄礼子　小薄キミ子　小薄正子　諏訪ナミ子　野元ミヨ子　小薗サダ子　山口タミエ　吉元キク工　郷原スギ　郷原フミ子　郷原キヨ　有村ユミ　有村シズ子　東吉ムツ子　東吉セツ于　豊崎キミ工　大窪美津子　郷原ミチエ　郷原てる子

整理作業員　下畠節子

2　調査の経過

発掘調査は、平成4年6月2日から同7月17日にかけて実施した。以下、日誌抄により発掘調査の経過を略述する。

6月2日～5日	A－2・3・4・5・6・7区の掘り下げ。成川式土器Ⅲ層より出土する。後半B・C・D区の表土剥ぎを行なう。
8日～12日	B区の掘り下げを行なう。V面より土器・石器出土。
15日～19日	A区の掘り下げを中心に作業をする。Ⅲ層面より成川式土器・V層面より土器・石器の出土あり。東側への傾斜が急である。
22日～26日	A・B区の掘り下げ続行。後半よりC区にはいる。
29日～7月3日	C区を中心に掘り下げを進める。遺物の出土量がA・B区に比べて減少
7月6日～9日	B･C区の掘り下げ続行。V層面より遺物出土。
13日～17日	D区の調査を行なう。17日に全ての調査終了。

第Ⅱ章　位　置　と　環　境

第１節　地理的環境

西丸尾Ｂ遺跡は、鹿屋市白水町西丸尾に所在し、高隈山系の北東部の台地上に立地する。鹿屋市は九州南東部の大隅半島中央部に位置し、大隅地方の政治・経済・文化の中心都市としての機能をはたしている。

市の東北部には1000m級の高隈山系が、南西部には700ｍ～800m級の肝属山系が連なる。その他の大部分はシラス台地であり、西側は鹿児島湾に面している。

シラス台地は、南九州に一般的にみられる地形で約22000年前に姶良カルデラから噴出した火砕流堆積物によるもので、生産性の低い土壌にあるにもかかわらず、サツマイモや落花生を主とする農作物が生産されている。これらの農作物が生産されるようになった背景には、長い間水を得るための努力があった。

西丸尾Ｂ遺跡が存在する白水町は鹿屋市の西北部に位置し、北側は高隈山系が連なり、高須川により深く浸食された丘陵地帯になる。南側は高須川低地、鹿屋台地になる。西丸尾Ｂ遺跡は、鹿屋台地の内側にある花岡台地上に立地する。

第２節　歴史的環境

鹿屋市内の遺跡の数は、昭和50年には18箇所であったが、現在においては200箇所を数えるほどに増えている。これらのなかには発掘され、貴重な発見があったものも少なくない。以下鹿屋市の遺跡について概観する。

旧石器時代

鹿屋市内においては、国道220号鹿屋バイパス建設に伴い遺跡の発掘が続いているが、その中において、旧石器時代の遺物･遺構が多量に発見された榎崎Ａ・Ｂ遺跡、西丸尾遺跡がよく知られている。これらの遺跡は本遺跡と近い距離にある。

縄文時代

草創期の遺跡として知られているのは南町の伊敷遺跡である。また、上楠原・西丸尾遺跡などにおいても遺物･遺構の発見がある。鹿児島県においてはここ近年縄文草創期の遺跡の発見が続いているので、鹿屋市においても草創期の遺跡数の増加が考えられる。

前期から晩期にかけての遺跡については、遺跡の数は非常に多く枚挙にいとまがない。鹿屋バイパス関係においても多数の縄文時代の遺跡について報告がなされている。

鹿屋市には縄文時代関係の遺跡が数多く存在している。本県における貴重な情報提供地域であることがいえると思う。

弥生時代

水の谷遺跡・榎木原遺跡等いろいろな遺跡が知られているが、王子町で発見された王子遺跡は中期末から後期初頭の集落遺跡として全国に知られている。また、鹿屋バイパス関係いにおいても多くの弥生時代の遺跡が知られている。

古墳時代

大隅半島の志布志湾沿岸や肝属川流域は、鹿児島県内において高塚古墳や地下式横穴の分布の中心としてよく知られているが、鹿屋市内においても西祓川町や野里町・岡泉Ｂ遺跡などにおいて

円墳が知られている。その他、古墳時代の土器である成川式土器の出土した遺跡も多い。

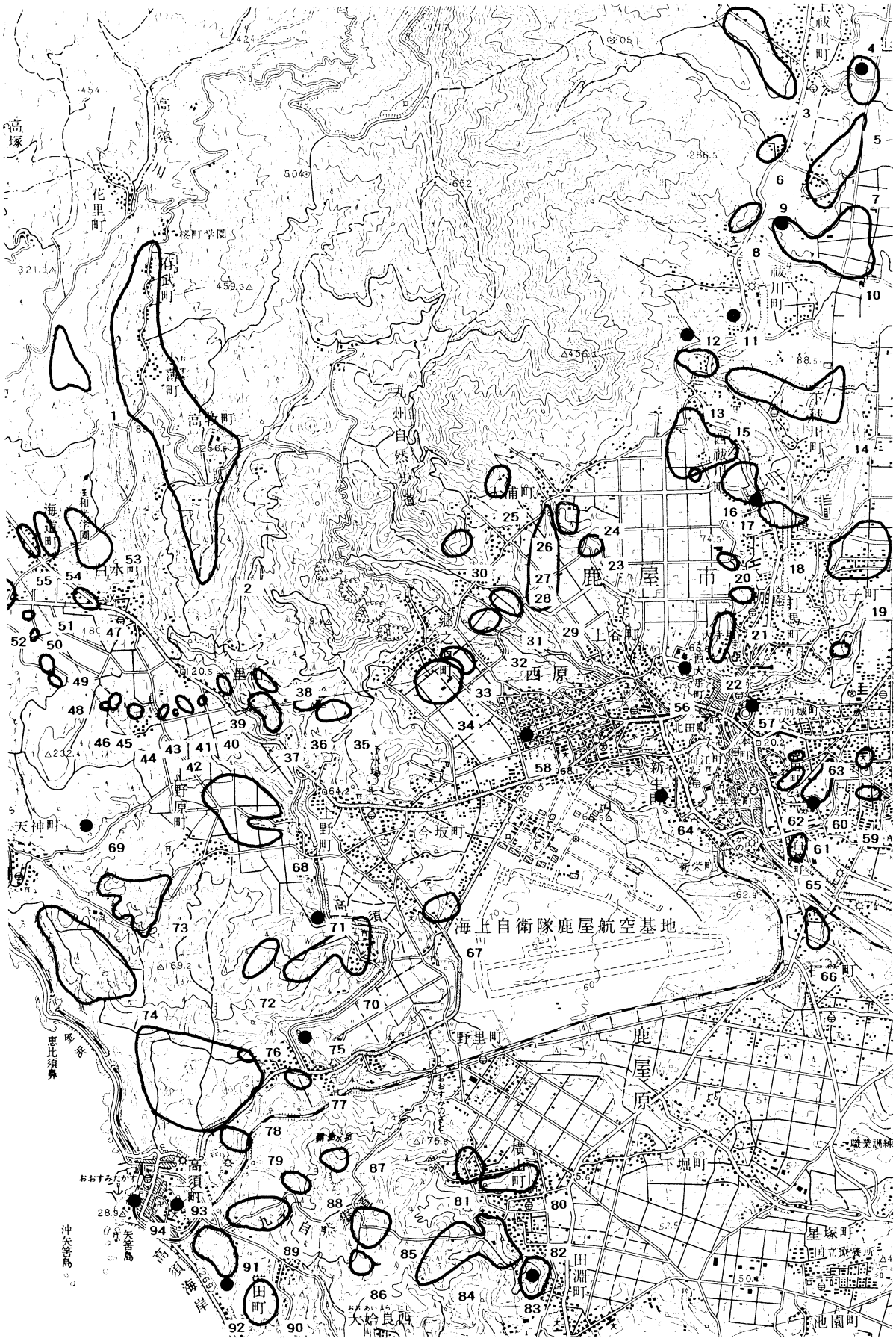
歴史時代

奈良時代から平安時代にかけての遺跡は鹿屋バイパス関係の発掘調査においてもいろいろ発掘され報告されている。また、南北朝から戦国時代にかけての山城が多数存在している。

鹿屋市においては、国道220号線古江バイパス関係の発掘調査が行なわれるので今後さらに遺跡の数は増加するものと考えられる。

参 考 文 献

1. 土地分類基本調査　志布志湾地域開発地域「鹿屋・志布志」国土調査　1971
2. 鹿屋市史
3. 「全国遺跡地図鹿児島県」文化庁　1975
4. 鹿児島県埋蔵文化財調査報告書（9）「大隅地区埋蔵文化財分布調査概報」鹿児島県教育委員会　1978
5. 鹿児島県埋蔵文化財調査報告書（13）「大隅地区埋蔵文化財分布調査概報」鹿児島県教育委員会　1980
6. 鹿児島県埋蔵文化財調査報告書（23）「大隅地区埋蔵文化財分布調査概報」鹿児島県教育委員会　1982
7. 鹿児島県埋蔵文化財調査報告書（25）「大隅地区埋蔵文化財分布調査概報」鹿児島県教育委員会　1983
8. 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（29）「大隅地区埋蔵文化財分布調査概報」鹿児島県教育委員会 1984
9. 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（34）一般国道220号鹿屋バイパス建設に伴う発掘調査報告書（Ⅰ）「王子遺跡」鹿児島県教育委員会　1985
10. 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（44）「榎木原遺跡」鹿児島県教育委員会　1987
11. 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（48）一般国道220号鹿屋バイパス建設に伴う発掘調査報告書（Ⅱ）「概要編・榎田下遺跡・中ノ丸遺跡・川ノ上遺跡・中ノ原遺跡（Ⅰ）」鹿児島県教育委員会　1989
12. 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（51）「榎木原遺跡Ⅱ」鹿児島県教育委員会 1989
13. 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（52）一般国道220号鹿屋バイパス建設に伴う発掘調査報告書（Ⅲ）　中ノ原遺跡（Ⅱ）・中原山野遺跡・西原掩体壕跡・前畑遺跡」鹿児島県教育委員会 1990
14. 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（53）「榎木原遺跡Ⅲ」鹿児島県教育委員会　1990
15. 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（63）「榎崎Ａ遺跡」鹿児島県教育委員会　1992
16. 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（64）「西丸尾遺跡」鹿児島県教育委員会　1992
17. 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（3）「飯盛ケ岡遺跡」　鹿児島県立埋蔵文化財センター　1993
18. 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（4）「榎崎Ｂ遺跡」　鹿児島県立埋蔵文化財センター　1993
19. 鹿屋市埋蔵文化財調査報告書（1）「上祓川遺跡群（上楠原・水ノ谷・丸岡遺跡）」鹿屋市教育委員会　1984
20. 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書（2）「高付遺跡」鹿屋市教育委員会　1984
21. 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書（3）「保刈遺跡・鶴羽遺跡」鹿屋市教育委員会　1985
22. 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書（4）「早山遺跡・宮の脇遺跡」鹿屋市教育委員会　1986
23. 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書（5）「水の谷遺跡」鹿屋市教育委員会　1986
24. 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書（6）「岩之上追跡」鹿屋市教育委員会　1987
25. 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書（7）「柿窪遺跡・城ケ崎遺跡・大久保遺跡」鹿屋市教育委員会　1987
26. 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書（8）「打馬平原遺跡」鹿屋市教育委員会　1988
27. 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書（11）「大畑平遺跡」鹿屋市教育委員会　1989
28. 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書（12）「岡泉（Ⅰ）遺跡」鹿屋市教育委員会　1989
29. 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書（13）「岡泉（Ⅲ）遺跡」鹿屋市教育委員会　1989
30. 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書（14）「神野牧遺跡」鹿屋市教育委員会 1989
31. 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書（15）「谷平遺跡」鹿屋市教育委員会　1989
32. 「鹿屋郷土史」鹿屋町教育會纂　1928
33. 鹿児島県埋蔵文化財調査報告書（36）「鹿児島県市町村別遺跡地名表」鹿児島県教育委員会　1985
34. 「鹿児島県埋蔵文化財の知識」鹿児島県教育委員会　1986
35. 「南九州縄文研究通信№1」南九州縄文研究会　1987
36. 「南九州縄文研究通信№2」南九州縄文研究会　1989
37. 「南九州縄文通信№3」南九州縄文研究会　1990
38. 「南九州縄文通信№4」南九州縄文研究会　1991
39. 河口貞徳　日本の古代遺跡38「鹿児島」保育社　1988
40. 鹿児島県教育委員会「相対する旧石器遺跡―鹿児島県榎崎Ｂ遺跡・西丸尾遺跡」季刊考古学第34号　雄山閣　1991
41. 原口虎雄「鹿児島県の歴史」県史シリーズ46　山川出版社　1973


鹿屋市
西原
上谷町
海上自衛隊鹿屋航空基地
鹿屋原
野里町
今坂町
高須町
大姶良西
田淵町
星塚町
池園町
下堀町
横山町
野原町
天神町
白水町
海道町
高牧町
花里町
高須川
高須海岸
沖矢筈島
恵比須鼻

第5図　周辺の遺跡

第1表　周辺遺跡地名表 (1)

No.	道跡名	所在地	時代	遺物	
1	立柴	花岡町柴立	縄（後）	条痕文・メンコ・沈線文	
2	小薄町遺跡群	小薄町・有武町・高牧町	縄（早・前・後）・古		
3	上祓川遺跡群	上祓川・上楠原・丸岡・水の谷	縄（早・前・晩） 弥（前・中）古・歴	土器片・石器	
4	日ケ城跡	上祓川町芝原日ケ城	南北朝・戦国		
5	楠原	上祓川町楠原	古	土器片	
6	芝原	祓川芝原	古	土器片・黒曜石・石斧	
7	大窪	上祓川大窪	縄（後）～古	土器片	
8	山外森	上祓川山外森	古・歴	土器片・石包丁	
9	瀬戸城跡	祓川町瀬戸口	鎌倉・南北朝		
10	石仏頭	中祓川石仏頭	弥・古	土器片	
11	長谷城	祓川長谷	鎌倉～戦国		
12	鹿屋一谷城跡	西祓川町一ノ谷	南北朝初期～戦国		
13	中野	祓川	弥（中）・古	土器片・石斧	
14	堀之牧遺跡群	中祓川町堀之牧	弥沖）・古	土器片	
15	神野牧	西祓川町神野牧	縄（前・後・晩）	土器片・石器・石匙	
16	薬師堂の古墳	西祓川町下中原前	弥（後）・古	成川	円墳3基
17	西祓川地下式土壙	西祓川町井之上	5世紀半ば以前(推定)	短甲・衝角付冑	出土品のみ県指定 昭41・3・31
18	西祓川	西祓川町	縄～古	土器片	
19	王子	王子町王子	縄・弥（中）・古	土器片	中期集落跡
20	打馬	打馬町	古	土器片	
21	平原古墓	打馬町平原	古	5基の墓石と五輪塔一基	
22	打馬平原	打馬町平原	縄（早）・弥・近	土器片・石器	近世墓2基
23	榎田下	大浦町榎田下	縄（前・後）		
24	大浦	大浦町	縄（早）・古	縄文土器	地下式横穴
25	耳取ケ丘	大浦町耳取ケ丘		土器片	
26	並松	大浦町並松	縄	石斧	
27	コラケバッケ	大浦町コラケバッケ	縄	土器片	
28	中ノ原	大浦町中ノ原	縄		大8・京帝大発掘
29	中ノ原	大浦町中ノ原	縄(前～晩)・弥(中)～近世	土器片・石器	
30	郷之原	郷ノ原	縄・古	土器片・石器	
31	中ノ丸	大浦町中ノ丸	弥（中）・近世		
32	川ノ上	大浦町松橋川ノ上	近世		供養塚2基
33	中原山野	郷ノ原町中原山野	弥（中）		
34	前畑	郷ノ原町前畑	縄・弥（中）		
35	飯盛ケ岡	上野町飯盛ケ岡	縄・弥・古・平		63・元年調査
36	榎崎A	郷ノ原町榎崎	旧・縄・平		元年調査
37	高橋	上野町	弥・古	土器片	
38	榎崎B	郷ノ原町榎崎	旧・縄・平		2・3年調査
39	西丸尾	白水町西九尾	旧・縄～平		2年調査
40	西丸尾B	白水町西丸尾	縄（早）	前平式・下剥峯の土器・敲石など	本報告書
41	白水A	白水町	古・歴	土帥器・成川式	古江パイパス分布
42	萩ケ峯A	白水町	古・歴	土師器・成川式	古江パイパス分布
43	萩ケ峯B	白水町	古・歴	土師器・成川式	古江パイパス分布
44	白水B	白水町	古・歴	土師器・成川式	古江パイパス分布
45	山ノ上A	小野原町	古・歴	土師器・成川式	古江パイパス分布
46	山ノ上B	小野原町	古・歴	土師器・成川式	古江パイパス分布
47	宇戸平	小野原町	縄（早）	塞ノ神式	古江パイパス分布
48	千場	白水町	縄（晩）	土器片	

第２表　周辺遺跡地名表　(2)

No	遺跡名	所存地	時代	遺物	備考
49	石鉢谷A	古里町	古・歴	土師器・成川式	古江バイパス分布
50	石鉢谷B	古里町	古・歴	土師器・成川式	古江バイパス分布
51	古里A	古里町	古・歴	土師器・成川式	古江バイパス分布
52	古里B	古里町	古・歴	土師器・成川式	古江バイパス分布
53	古里	古里町花岡中敷地	縄（後）・弥・古	土器片	
54	俣刈	海道町俣刈迫	縄（早・後・晩）古	成川式他	
55	本戸口	海道町本木戸	縄（前）・古		
56	枯木ケ尾	古里町枯木ケ尾	弥・古	須恵器・成川式	
57	鹿屋城跡	北田町	鎌倉初期～南北朝		
58	古前城跡	古前城町	鎌倉中期～南北朝		
59	久恵城跡	西原町	南北朝初期～戦国		
60	寿六丁目	寿	古	土器片	
61	白崎	白崎町	古	土器片	
62	白崎城跡	白崎町	南北朝・戦国		
63	曽田	曽田町	古	土器片	
64	寿三丁目	寿	古	土器片	
65	鹿屋古城跡	新生町	南北朝初期	弥生土器	完消
66	高付	白崎町弥生団地	弥（中）～古	土器片・石包丁	
67	老神	田崎町老神部落	胚		
68	野里小西	野里町	縄（早・前）・古	土器片	
69	小野原	小野原町	古・歴	土器片	集落遺跡
70	荒平城跡	天神町	南北朝・戦国		
71	大津	野里町	弥・古	土器片	
72	野里城跡	野里町	戦国		
73	大畑平	野里町	縄～古	石坂式ほか	
74	丸岡	小野原町	古・歴	土器片・鉄滓	
75	天神	天神町	古	土器片	
76	小牧城跡	野里町岡泉	南北朝・戦国		
77	野里の古墳	野里町1，826の1	古		円墳3基
78	岡泉	野里町岡泉	縄～歴	土器片	
79	岡泉B	野里町岡泉	弥・古	土器片	円墳3基 昭和63年度調査
80	岩之上	高須町岩之上	縄	石坂・吉田式	
81	横山2	横山町	古	土器片	
82	横山1	横山町	古	土器片	
83	岡元	横山町岡元	弥・古	土器片・石斧	
84	横山城跡	横山町横山	南北朝・戦国		
85	横山3	横山町	古	土器片	
86	谷平	横山町	縄（早）・古	土器片	居住址
87	松の問	横山町松の岡	古・歴	土器片	居住址 昭和24年調査
88	霧島ケ丘	霧島ケ岡公園	縄	吉田・塞ノ神A式	昭和59年以降調査
89	キタバイ	高須町キタバイ	弥（後）・古	土器片・石器	
90	立神	高須町立神	縄（後・晩）・古・歴	土器片・青磁・石斧	
91	下西原	兵田町下西原	弥・古・歴	成川式・青磁	
92	榎木原・掛平	高須町榎木原	縄・歴	土器片	居住址
93	浜田城跡	浜田町	南北朝・戦国		
94	高須古城跡	高須町高須	南北朝以降		
95	高須城跡	高須町高須	南北朝・戦国		

第Ⅲ章　発　掘　調　査

第１節　調査の概要

発掘調査はトラック・スケール建設予定地内に10×10ｍのグリッドを設定して行った。グリッドは確認調査のトレンチを基準に、北東－南東方向にＡ～Ｅ区、南東～北西方向に１～７区を設定した。

表層は重機によって排土し、Ⅱ層以下を人力で掘り下げたが、Ⅱ層は調査区域内の大部分のところで、近世以降の畑の耕作により削平されていたため、表層の下はⅢ層又はⅣ層という状態であった。

Ⅱ層は、調査区域の北東側Ａ－２～６区にかけて確認され、急な斜面に厚く堆積しており、流れ込みと思われる古墳時代の土器等が出土した。

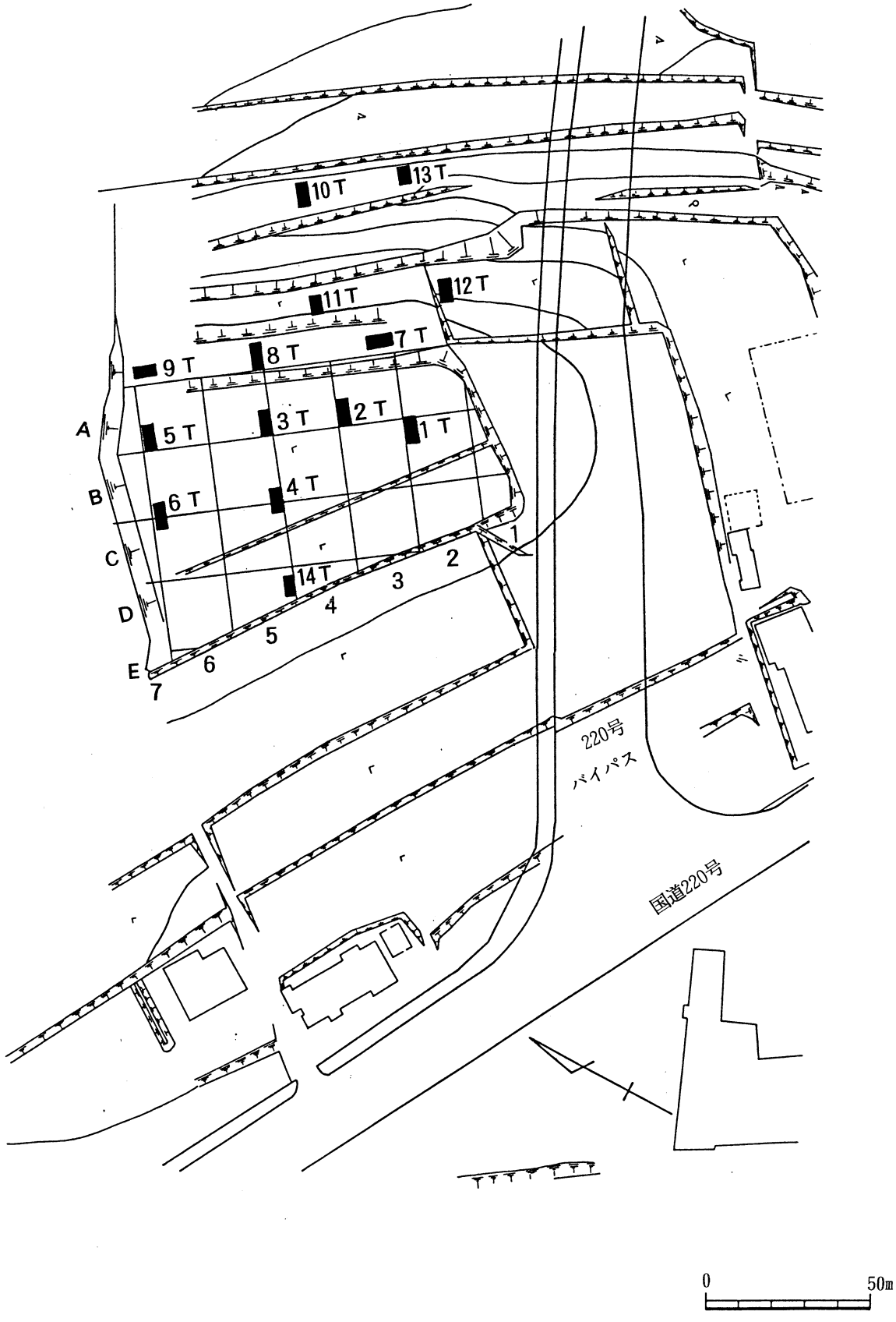
Ⅴ層は縄文時代早期にあたる層で、１区、Ａ～Ｃ－２区、Ｃ・Ｄ－３区を除いた調査区域内より遺物が出土した。またＢ－６区、Ｂ－４区からは集石遺構が２基検出された。

Ⅶ層は旧石器時代の剥片等が出土し、Ｂ－６区からは土坑が検出された。

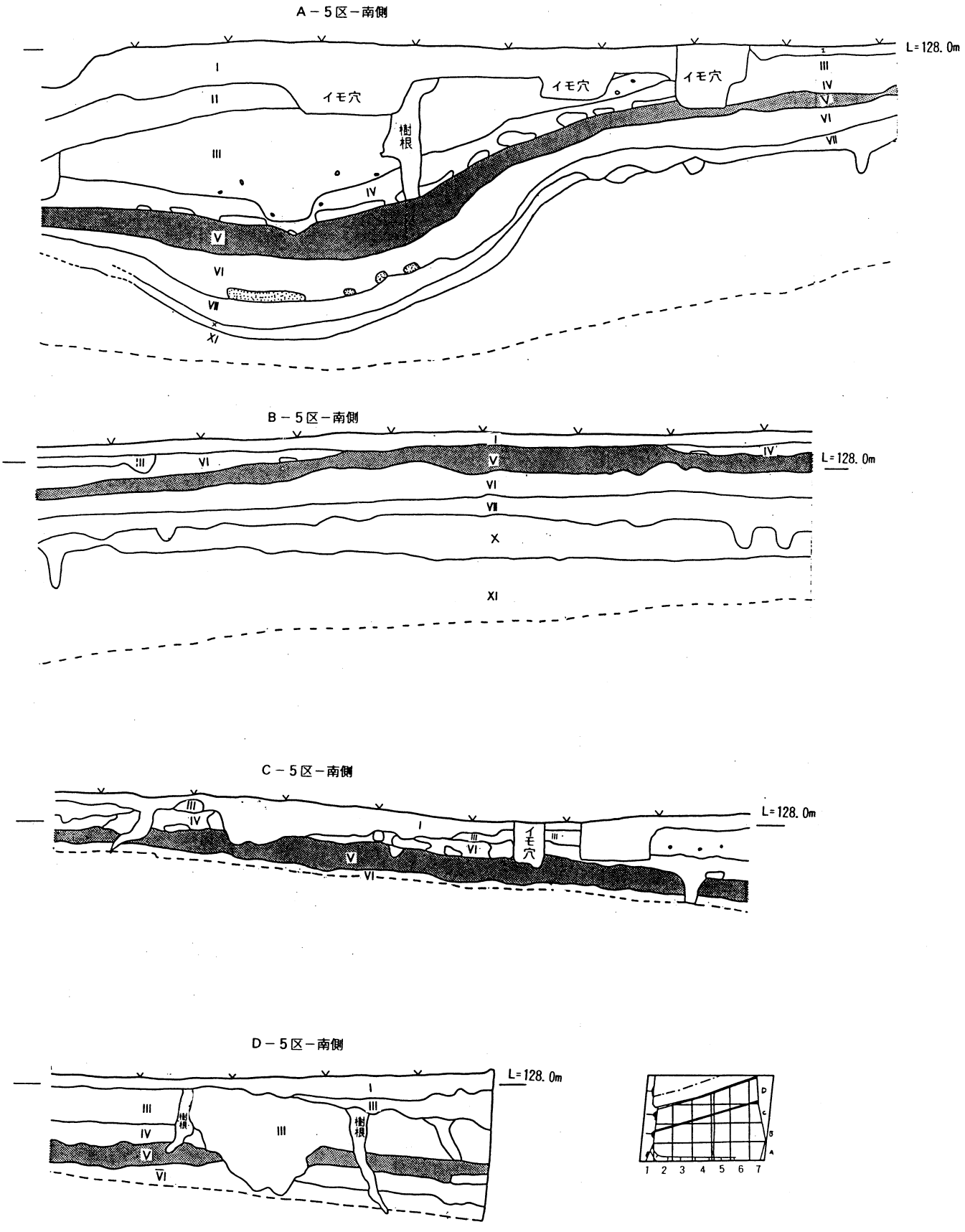
第２節　層序

西丸尾Ｂ遺跡の層序については第Ⅰ章の確認調査の項において若干触れたがここで改めて説明する。

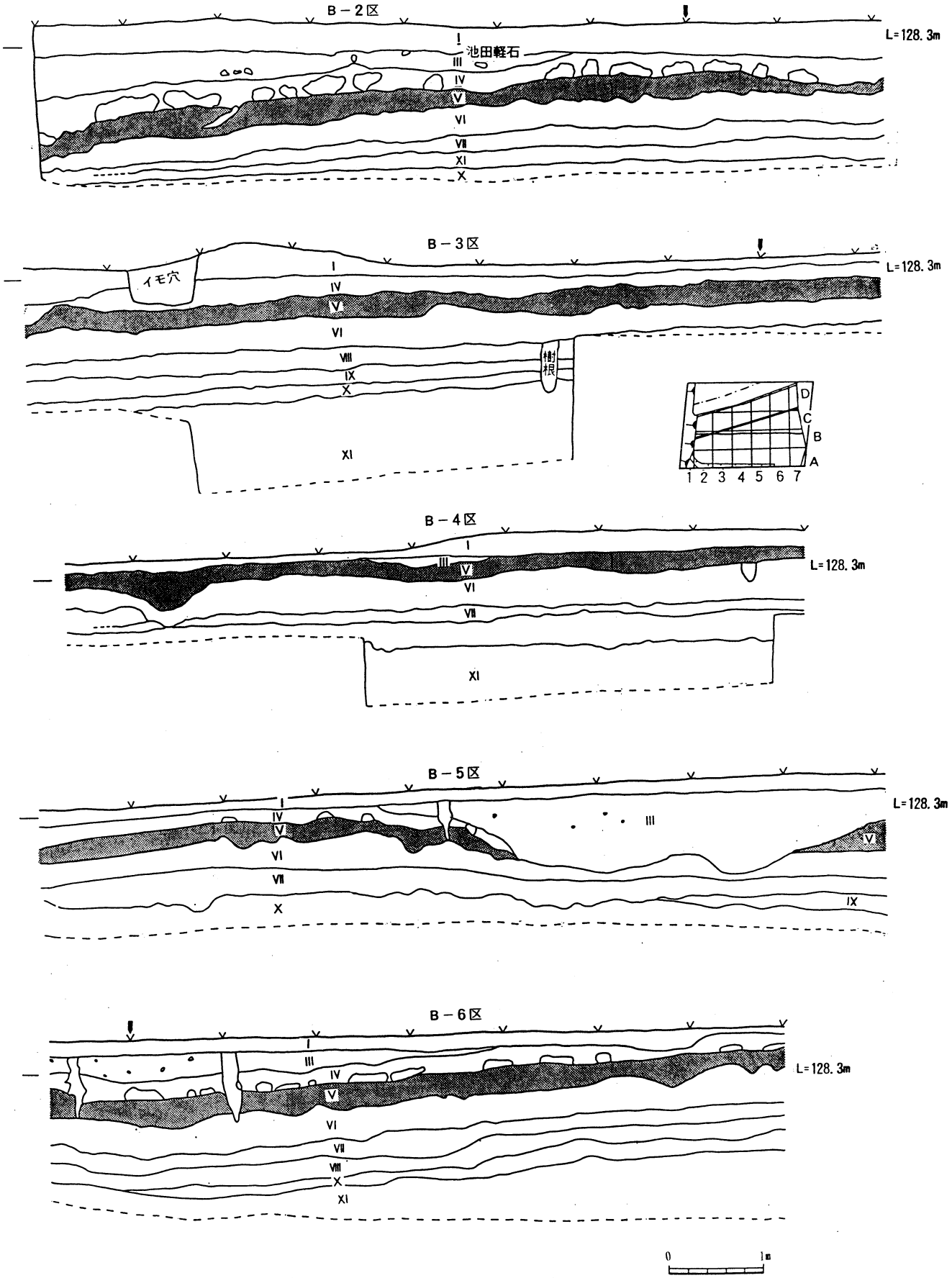
Ⅰ層	暗褐色土	表土。耕作土として利用されている。古墳時代以降の土器を含む。
Ⅱ層	黒色腐植土	畑の耕作により、ほとんど削平されている。部分的に厚く残存している。古墳時代以降の遺物を包含していたものと思われる。
Ⅲ層	暗黄褐色土	砂質の土層である。上部は耕作により削平を受けている部分もある。色彩によって、２層に分けられる。中部から下部にかけて池田降下軽石を含んでいる。
Ⅳ層	黄褐色土	砂粒と軽石や小さい礫で構成されている。喜界カルデラ起源のアカホヤ火山灰に相当する。下部にブロック状に軽石などが堆積している部分もある。
Ⅴ層	乳白色土	縄文時代早期の遺物包含層である。
Ⅵ層	黒褐色土	ややしまった土である。下部には黄色の２～３cmぐらいのパミスが見られる。薩摩火山灰に相当する。
Ⅶ層	暗褐色粘質土	粘質が強い。旧石器時代細石器文化の遺物包含層である。
Ⅷ層	淡褐色土	やや粘質がある。部分的に存在した。
Ⅸ層	黒褐色粘質土	粘質があり、固くしまっている。旧石器時代ナイフ形石器文化の遺物包含層である。
Ⅹ層	暗褐色硬質土	黄橙色の細かいパミスを含む硬質のブロックである。
Ⅺ層	黄色砂層	ヌレシラス。
Ⅻ層	黄橙色砂礫層	２～３cmほどの軽石・礫を主体とする層。



第６図　遺跡の地形及びグリッド配置図



第7図　A, B, C, D－5区土層断面図



第8図　B－2，3，4，5，6区土層断面図

第Ⅳ章　旧石器時代

第1節　調査の概要

西丸尾B遺跡の周辺には数多くの旧石器時代の遺物が発掘された榎崎A遺跡・西丸尾遺跡が存在している。確認調査の結果においても旧石器時代の包含層から1点ではあるが遺物の出土をみている。このようなことをふまえて本遺跡においても調査を行なった。しかし、旧石器時代の包含層は全体的に残存していたが、遺構は土坑が1基みられただけである。遺物については、礫の散布はわずかながらみられるがはっきりと石器とみられるものは少なかった。

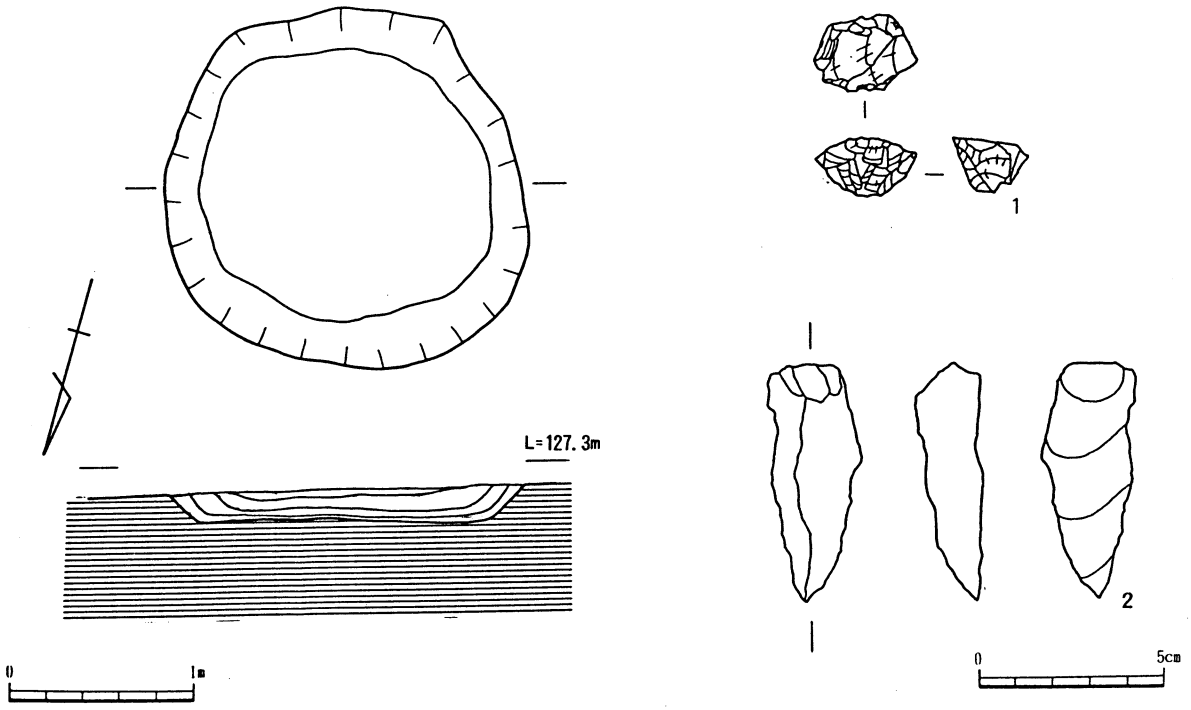
確認調査の結果にあるように、旧石器時代の遺跡の中心は工事区内よりも東側に存在するものと思われる。

第2節　遺構遺物

遺構は、土坑が1基出土したが，埋土内からの遺物出土はなかった。

出土した遺物は非常に少なく、図化できたのは2点だけであった。

1はB－3区より出土したもので、細石核になるのではないかと考えられるものである。石質は黒曜石である。正面から剥離しいるものと思われ、調整はされていないようである。黒曜石の出土は本遺跡においてはあまり多くない。長さ1.4㎝、巾2.0㎝、厚さ1.3㎝、重量2.63ｇである。2はB－4区より出土したもので、剥片である。石質は石英である。残りはよくなく、全体的に磨耗が激しく剥離面などもはっきりしていない。(長さ4.4㎝、巾1.7㎝、厚さ1.1㎝、重量7.59ｇである。) 石英の出土は若干みられるが使用痕等のみられるものの数は少なかった。



第9図　土坑及びⅦ層出土土器実測図

第Ⅴ章　縄文時代早期の調査

第1節　調査の概要

縄文時代は、アカホヤ火山灰より上部において、時期が明確な遺構・遺物は発見できなかった。表層より石鏃2本と剥片1片が出土した。

縄文時代早期の遺物包含層であるⅤ層（アカホヤ火山灰より下面）においては、集石が2基検出された。土器は前平式土器が中心に出土し、その他に石坂式土器1個体分と下剥峯タイプの土器がわずかに出土したが、小片が多かった。石器は礫等は多くみられたが、全体的に出土数は少なかった。内容的には石鏃やスクレイパー等の出土はなく、石斧・礫器類が出土した。また石皿の出土もみられた。

第2節　遺　　構

遺構としては集石遺構が2基検出された。両方とも掘り込み面はもっていない。使用している石の数には大きな違いがみられる。

1号集石

B－6区で検出された。径約1.7m内に集中して礫の散布がみられる。石は総数67個を使用している。礫には火を受けたようなあとは観察されなかった。周辺にも炭化物等はなかった。集石の内部から土器片が検出されている。

2号集石

B－4区で検出された。石の総数は10個で1号に比べ少ない。焼礫・焼土や土器等の出土はみられなかった。

第3節　出土遺物

1　土　器

Ⅴ層出土の土器は全部で599点であったが、完形品に復元できるものは1点だけで、ほとんどのものは小片であった。そのうち、43点を図化した。土器は大きくⅠ類～Ⅲ類に分類した。Ⅰ類土器は出土量が最も多く、本遺跡の中心をなすものである。

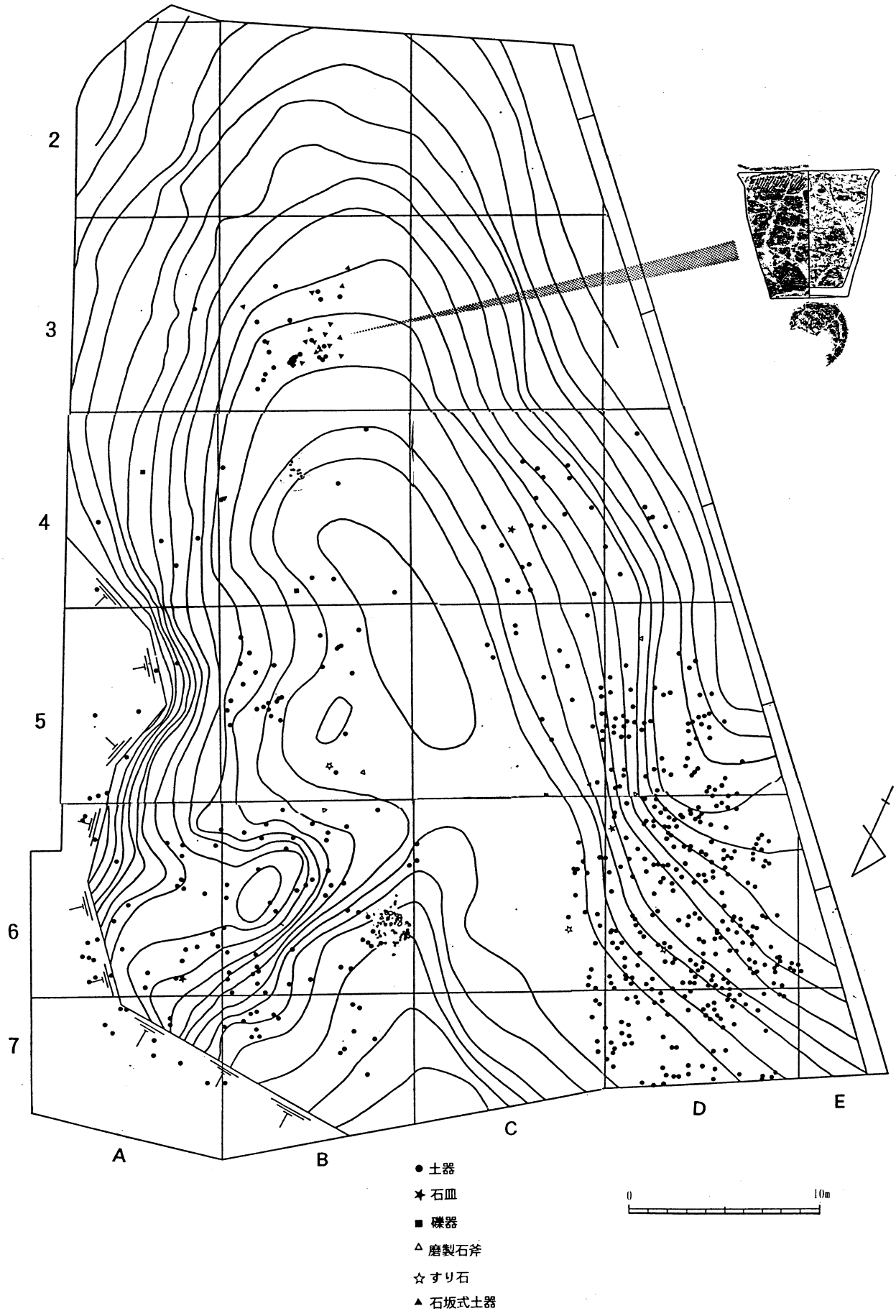
（1）　**Ⅰ類土器**（第13図～第16図）

円筒形を呈する平底の土器である。口縁部の形態は、内面を削ることによって段を作り出したものが大部分を占め、他にわずかではあるが平坦なものもみられる。文様は口縁部に集中し、貝殻腹縁又は篦状施文具により連続した刺突文が施される。胴部外面は、斜位又は横位の貝殻条痕が器面全体に施され、胴部内面は篦状工具によるナデ整形やケズリ整形が施される。口縁部の文様の違いによりさらに4つに細分した。

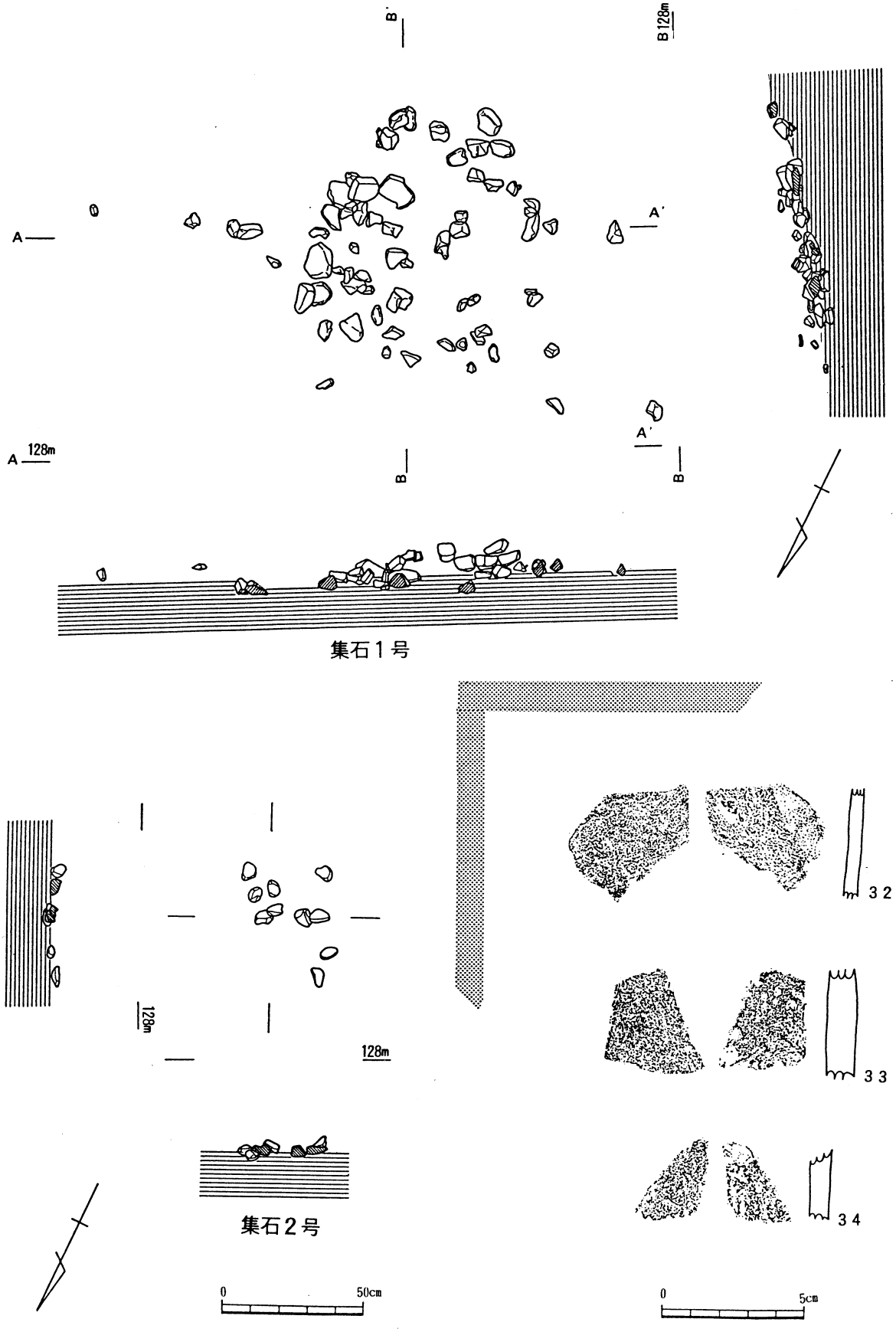
Ⅰa類土器（第13図－3・4）

口縁部に貝殻腹縁による刺突文を、羽状に巡らすものである。

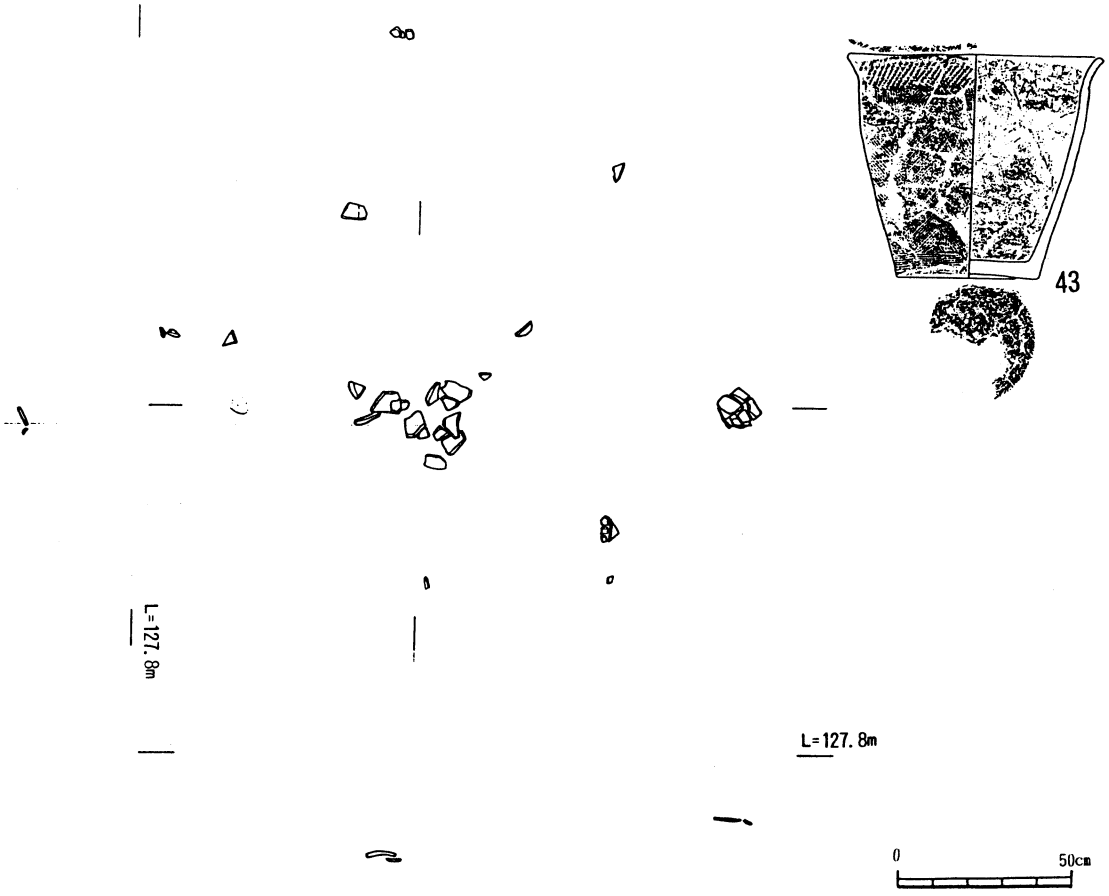
3・4は、口縁部が外側に肥厚し、やや内湾する。



第10図　遺構配置図及びＶ層遺物出土状況



第11図　集石１・２号及び集石内出土土器



第12図　Ｖ層土器出土状況実測図

Ｉｂ類土器（第13図－５～13）

口縁部に貝殻腹縁による刺突文を、斜位に巡らすものである。

５～９は、口唇部に篦状工具による連続した刻みが施されるため、口縁部が波状になるものである。胴部は貝殻条痕を横位に施した後、ナデ調整を施している。内面は篦状工具によるナデ整形を施され、部分的に条痕が残る。６・８は、口縁部がわずかに内湾する。９は、口縁部が外側にわずかに肥厚し内湾する。10・11は、口縁部内側に明瞭な段をもつものである。12・13は、口縁部が平坦なものである。12は器厚が５㎜と薄く、胴部は貝殻条痕が残らないほど丁寧なナデ整形が施されている。13は、胴部に右下がりの粗い貝殻条痕が施されている。

Ｉｃ類土器（第14図－14～18）

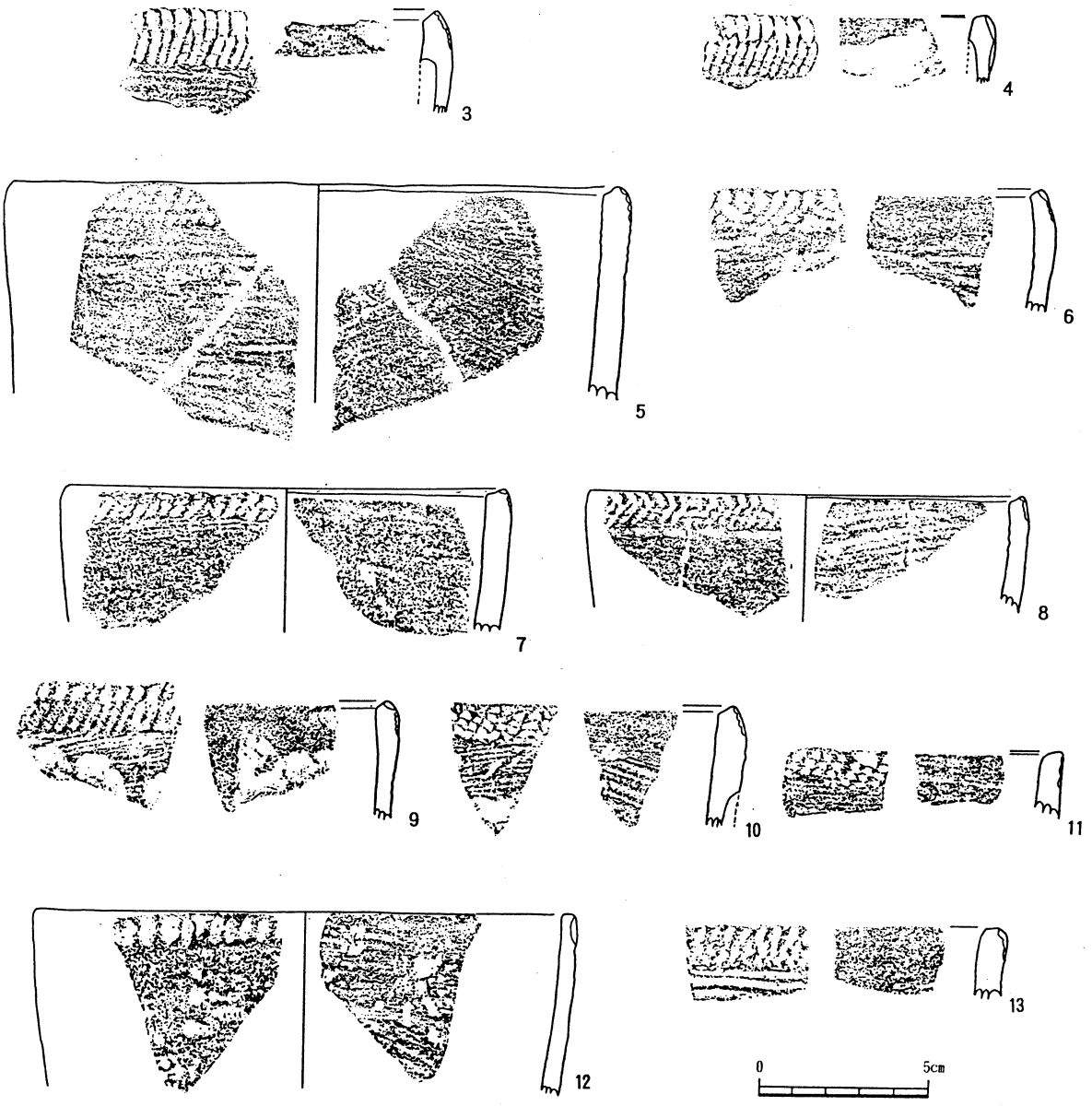
口縁部に、篦状工具による連続した刻みを、羽状に施すものである。

14は口縁部内側に明瞭な段をもつものである。16～18は口縁部内側をわずかに削り、段を作り出したものである。

Ｉｄ類土器（第14図－19～23）

口縁部に、篦状工具による連続した刺突文を斜位に巡らすものである。

19は、復元底径９㎝の円筒土器で、外面は右下がりの粗い貝殻条痕が施されている。内面は篦状工具により丁寧になでられ、刷毛目の後が残る部分も観察される。19～23の口唇部は、19・21・22



第13図　Ⅴ層出土土器実測図（Ⅰa・Ⅰb類）

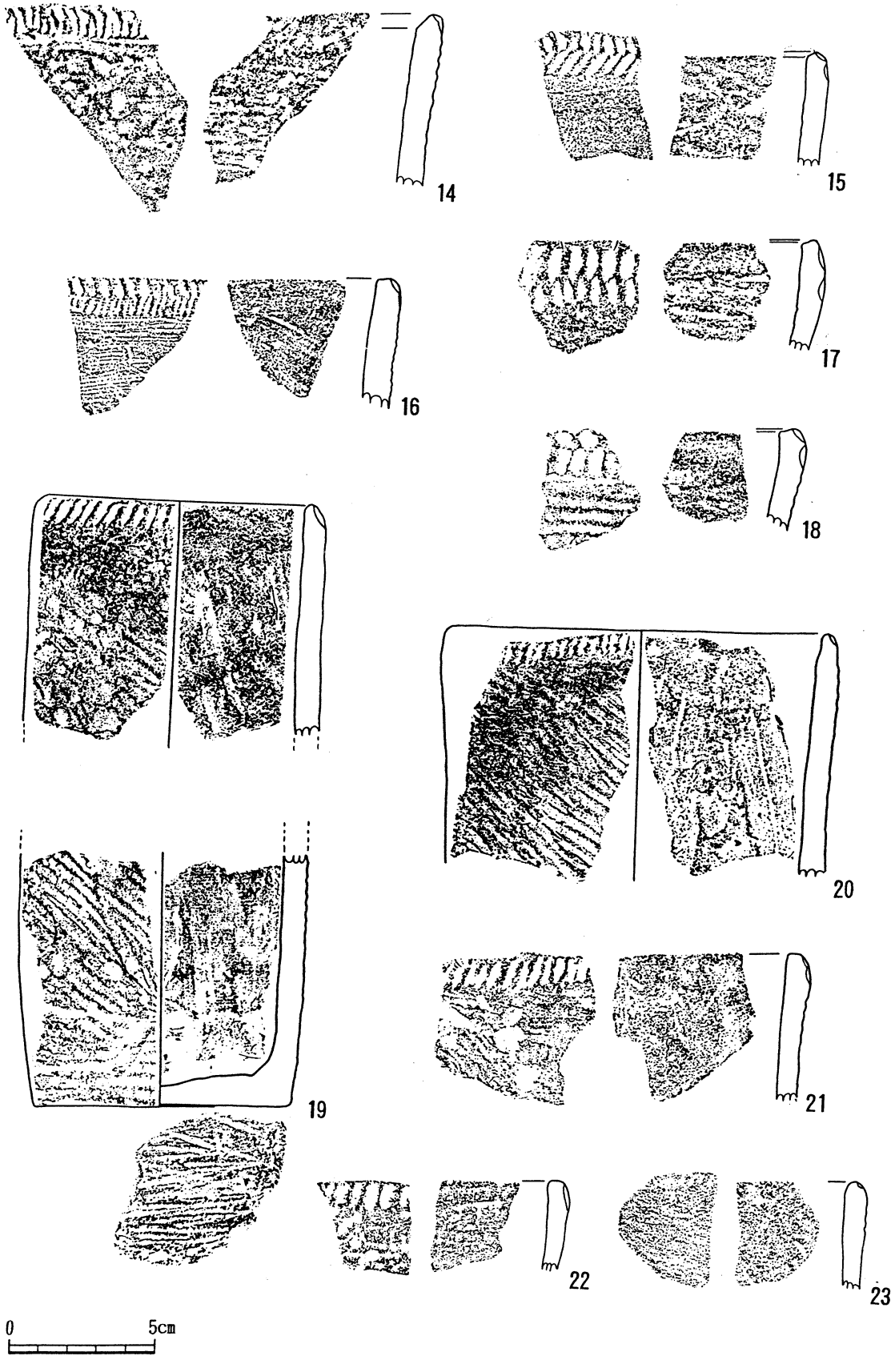
は平坦に、20・30はやや丸くおさめられている。

Ⅰ類土器胴部（第15図－24～34）

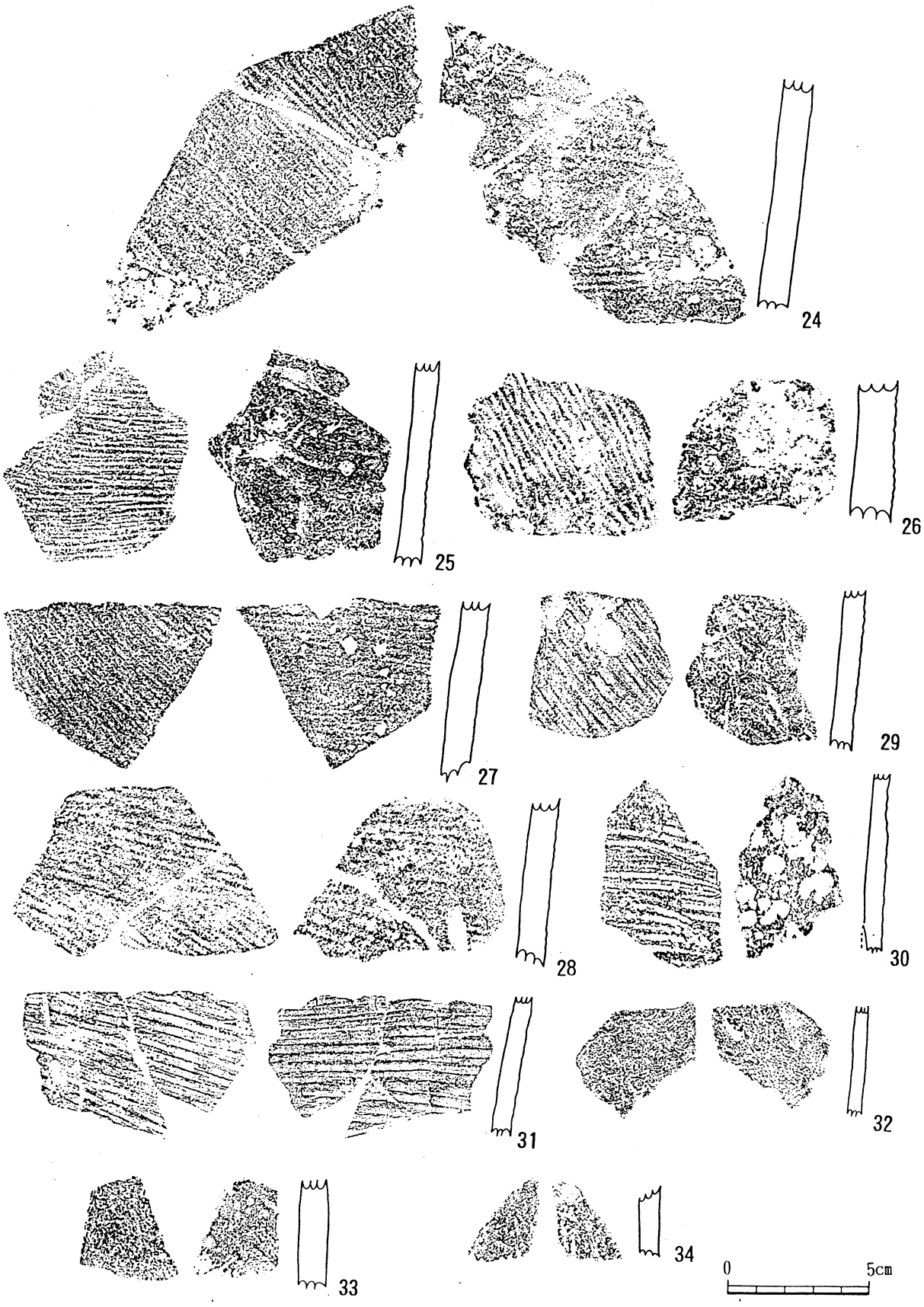
24～34はⅠ類土器の胴部である。外面は貝殻条痕を斜位または横位に施しているが、さらにその上からナデ調整を施している。内面は部位によって調整方法が異なり、24・27～30は箆状工具によるナデ調整が施され、ハケ目も観察される。25・26は箆状工具によるケズリ調整が施されている。31は、横位の深い条痕が観察されるが、箆状工具による調整痕と思われる。32～34は、集石内から出土したものであるが摩滅が激しく、調整は観察できない。

Ⅰ類土器底部（第16図35～42）

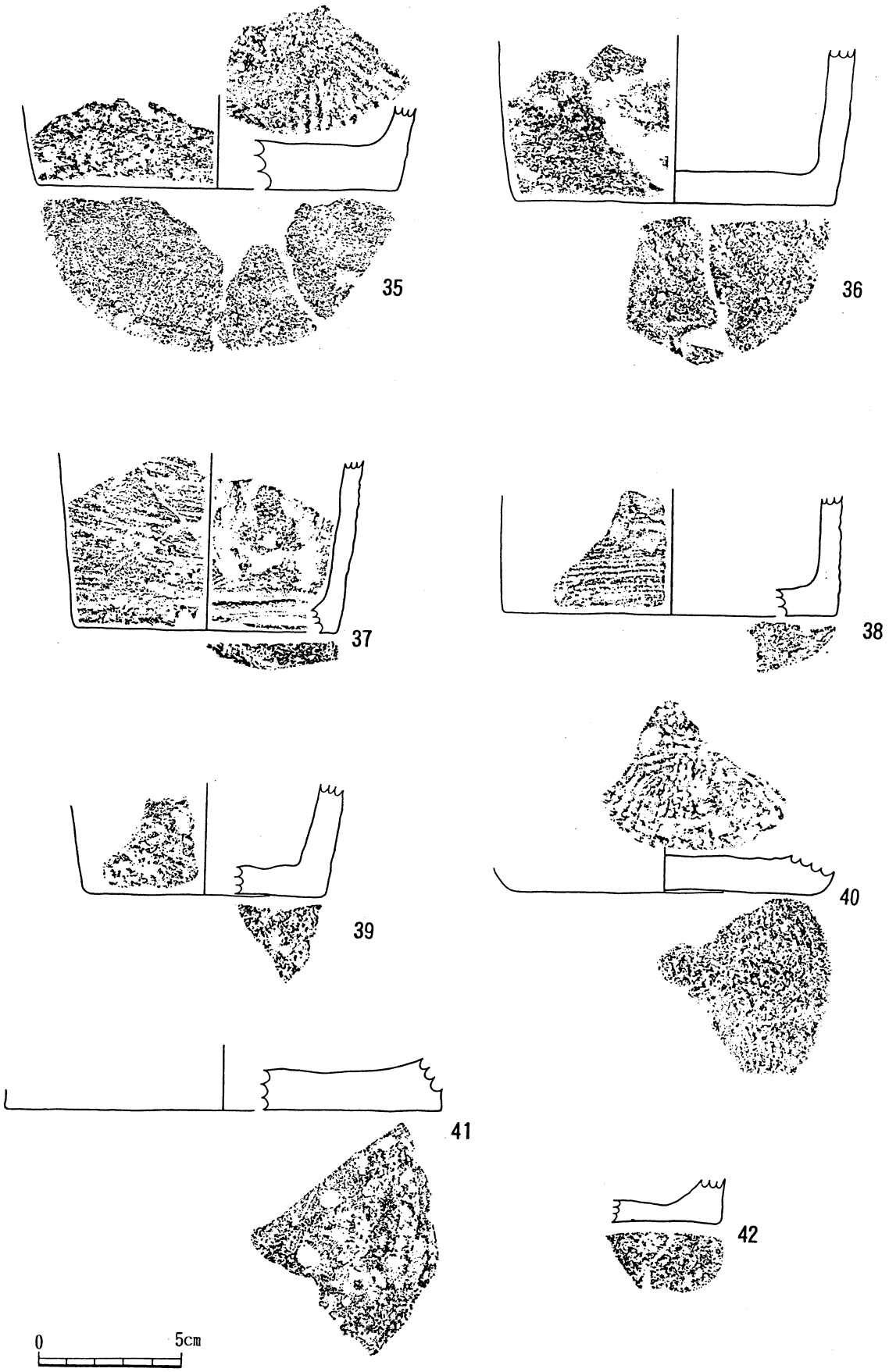
35～42はⅠ類土器の底部である。底部外面は、すべて丁寧なナデ調整が施されている。底部内面は、35・40において箆状工具による調整が施されており、放射状の条痕が観察される。



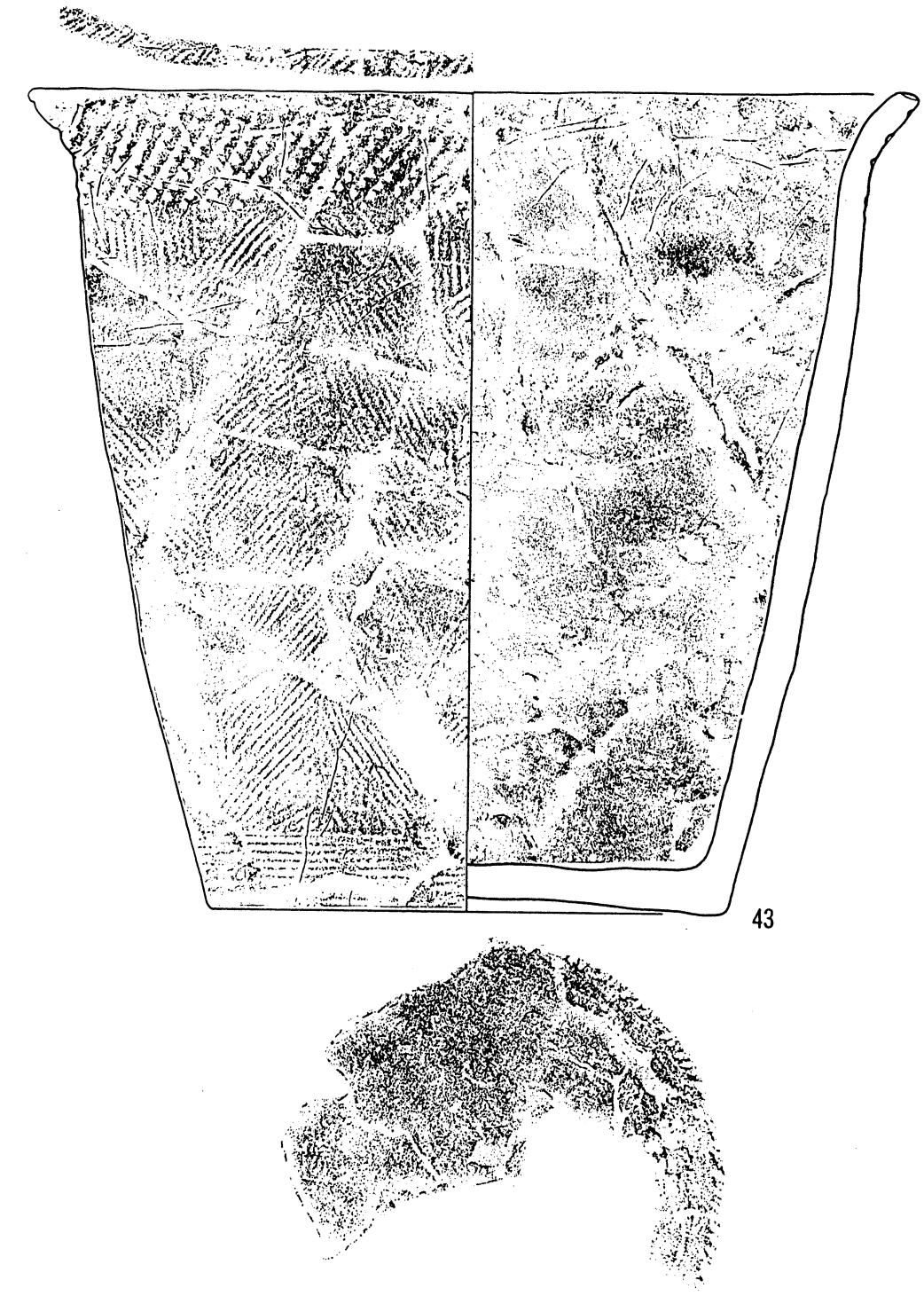
第14図　Ⅴ層出土土器実測図（Ⅰc・Ⅰd類）



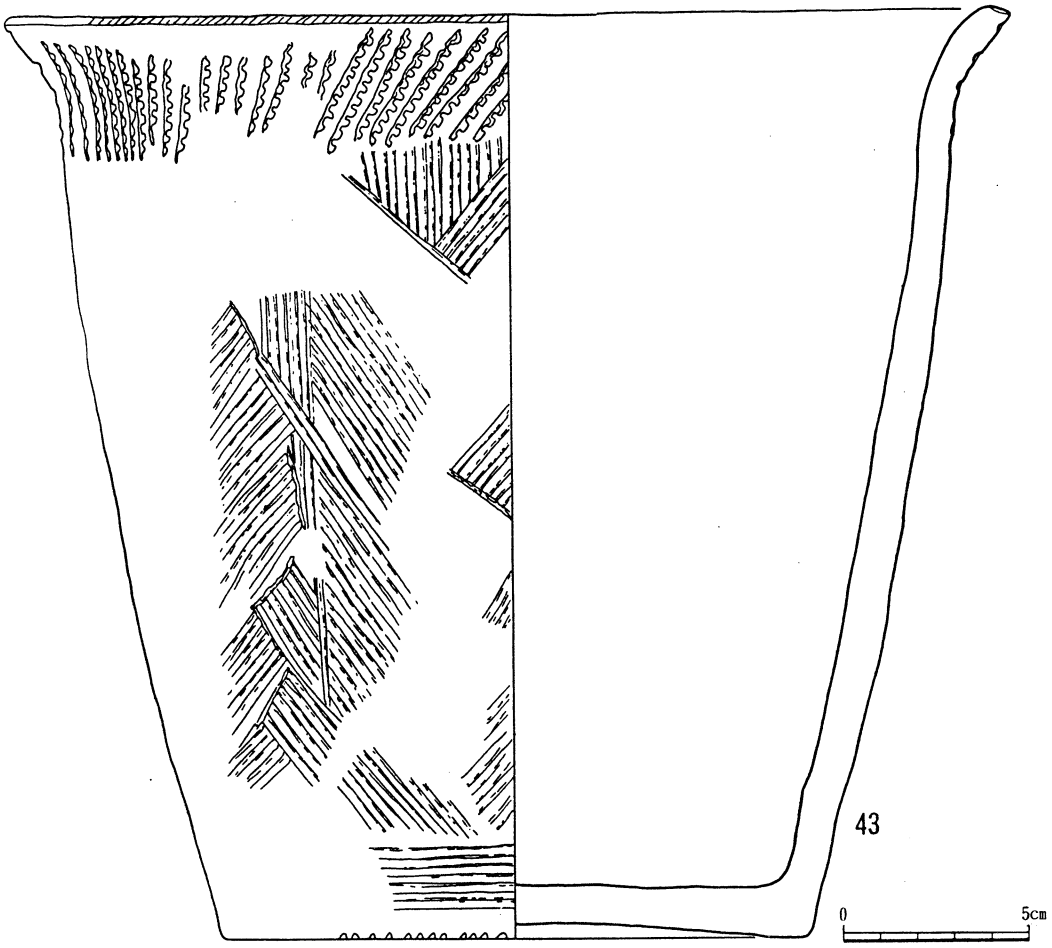
第15図　Ｖ層出土土器実測図（Ｉ類胴部）



第16図　V層出土土器実測図（I類底部）



第17図　Ｖ層出土土器実測図（Ⅱ類）



第18図　Ｖ層出土土器実測図（Ⅱ類）

Ⅱ類土器（第12図・第17図・第18図－43）

口縁部が大きく外反し、器高が低くバケツ状のもので、ほぼ一個体分出土した。口径29.3cm、器高25.6cm、底径16.2cmを計る。外面は貝殻条痕が綾杉状に施され、口縁部には貝殻腹縁による刺突文を施すものである。また底部の外縁部分には、篦状工具による連続した刻みが施されている。内面は、ヘラ削りのあとナデ調整を施している。

Ⅲ類土器（第19図－44・45）

出土数が少ないため全体の器形等はわからないが、胴部に貝殻腹縁による刺突文を羽状に施すものである。胴部内面は、ヘラ削りのあとナデ調整が施されている。44は胎土中に石英が多くみられ、45は金雲母が含まれている。

第19図　V層出土土器実測図（Ⅲ類）

挿図	番号	出土区	層	胎　土	外面文様調整 口縁部	外面文様調整 胴部	内面文様調整
第13図	3	D－7	V	石・長・角	貝殻腹縁刺突文（羽状）	貝殻条痕	ナ　デ
	4	A－6	〃	〃	〃	———	〃
	5	D－7	〃	〃	貝殻腹縁刺突文（横位）	貝殻条痕	〃
	6	D－5	〃	〃	〃	———	〃
	7	C－7	〃	〃	〃	———	〃
	8	D－5	〃	〃	〃	貝殻条痕のあとナデ	ケズリ
	9	B－6	〃	〃	〃	貝殻条痕	ナ　デ
	10	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	11	A－6	〃	〃	〃	〃	〃
	12	A－5	〃	〃	〃	貝殻条痕のあとナデ	ケズリ
	13	C－6	〃	〃	〃	貝殻条痕	ナ　デ
第14図	14	A－5	〃	〃	ヘラ状工具刻み（羽状）	〃	〃
	15	D－6	〃	〃	〃	〃	ケズリ
	16	〃	〃	〃	〃	〃	ナ　デ
	17	C－6	〃	〃	〃	〃	
	18	C－6	〃	〃	〃	〃	
	19	C－5	〃	〃	ヘラ状工具刻み（斜位）	〃	ナデ・条　痕
	20	B－5	〃	〃	〃	〃	〃
	21	C－4	〃	〃	〃	———	〃
	22	A－6	〃	〃	〃	〃	〃
	23	C－6	〃	〃	〃	〃	ケズリ
第15図	24	A－5 B－5	〃	石・長・角	———	貝殻条痕のあとナデ	ナ　デ
	25	D－7	〃	〃	———	〃	ケズリ
	26	C－6	〃	〃	———	〃	〃
	27	B－5	〃	〃	———	〃	ナ　デ
	28	B－5	〃	〃	———		〃
	29	D－5	〃	〃	———	〃	〃
	30	C－5	〃	〃	———		〃
	31	B－4	〃	〃	———	条　痕	ナデ・条　痕
	32	B－6	〃	〃	不　明	不　明	ナ　デ
	33	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	34	〃	〃	〃	〃	〃	〃
第16図	35	D－5・6	〃	〃	———	貝殻条痕のあとナデ	条　痕
	36	C・D－6	〃	〃	———	〃	ナ　デ
	37	D－5	〃	〃	———	〃	ケズリ
	38	A－6	〃	〃	———	条痕のあとナデ	ナ　デ
	39	C－7	〃	〃	———	〃	〃
	40	B－6	〃	〃	———		条　痕
	41	C－7	〃	〃	———		マメツ
	42	D－7	〃	〃	———		〃
第17・18図	43	B－3	〃	〃	貝殻腹縁刺突文（斜位）	貝殻条痕（綾杉状・横位）	ケズリのあとナデ
第19図	44	A・C－5	〃	〃	貝殻条痕刺突文（羽状）	貝殻条痕刺突文（羽状）	〃
	45	C－7	〃	石・長・金	〃	〃	〃

※ 石＝長石，長＝長石，角＝角尖，金＝金雲母

2　石　器

Ⅴ層出土の石器は種類としては、剥片・石斧・礫器が中心で石鏃・スクレイパーといったような石器の出土はみられなかった。石鏃においては表層において2本採集した。

石　鏃

石鏃はいずれも表採品であるために、Ⅴ層と同時期とは限らない。46は黒曜石で、二等辺三角形の形状をしている。47は、46同様に黒曜石製品であるが色は非常に薄い。姫島産の黒曜石の可能性もある。

剥　片

48も表採品であるため、時期ははっきりしない。石質はチャートである。49はⅤ層出土の剥片である。石質はチャートである。50は黒曜石の剥片であるが、形状からは旧石器時代の細石刃に似ているところもあるが、出土土層から考えて剥片とした。51は粘板岩である。形状からスクレイパーとも考えられたが、2次加工をしていないため剥片の類にいれた。

石　斧

52～57は石斧である。いずれの石斧も石質はホルンフェルスである。52は側面を磨いたようであるがはっきりしない。53は局部磨製石斧である。先端部に一部研磨された痕がみられる。形状は完全に残っているが全体的な調整はわからない。54は局部磨製石斧の刃部の先端部である。残存状態が悪いため研磨の痕などははっきりしない。55は途中から折れた形状である。刃部は残っていないためにはっきりしないが局部磨製石斧であると思われる。側面に調整した痕が観察できるが風化が激しく調整はよくわからない。56も局部磨製石斧である。刃部のところに研磨した痕は認められるが、調整の方向はわからない。57は55同様に折れて刃部もない。側面には調整の痕がみられる。

磨石・敲石

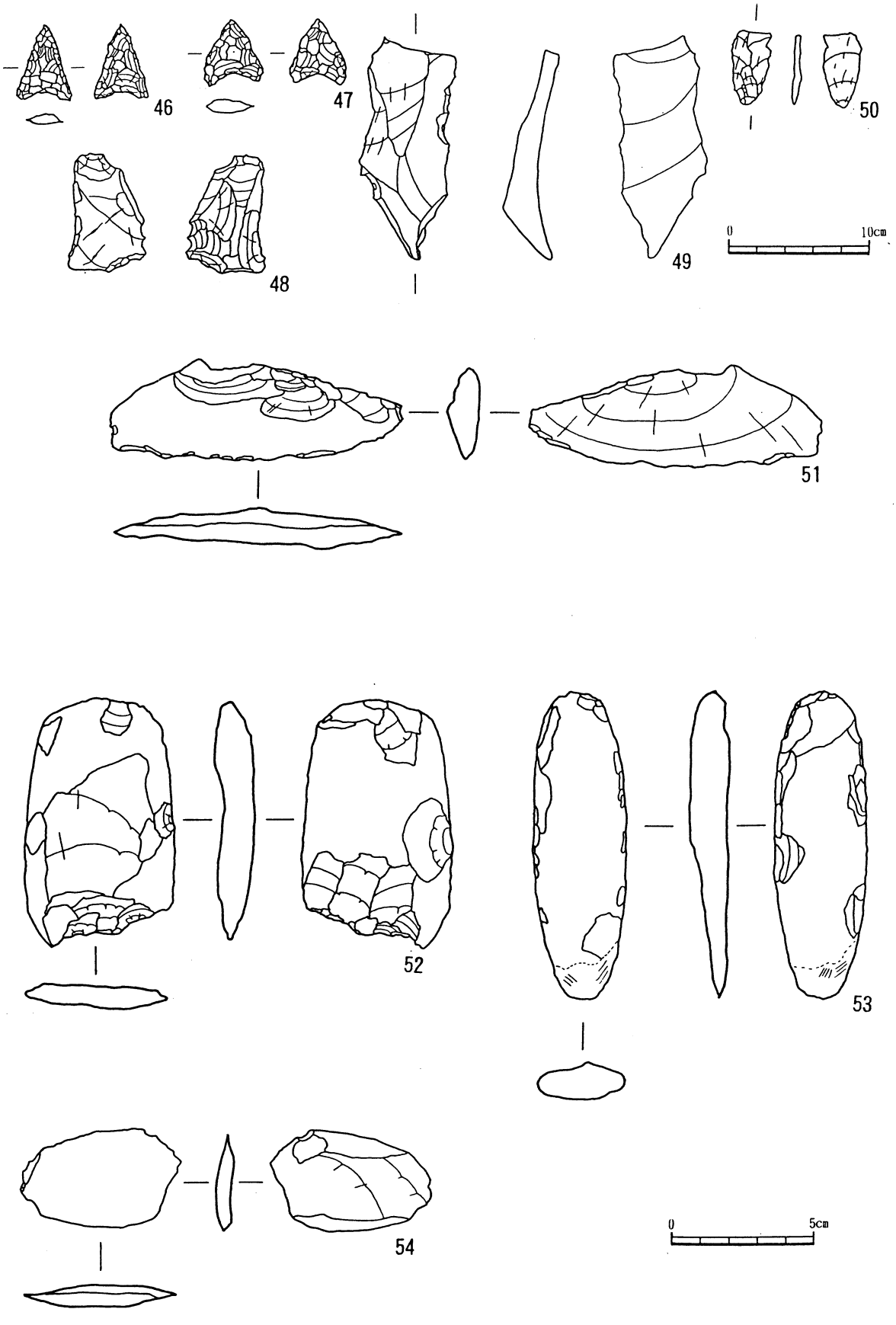
磨石・敲石の類は本遺跡からはあまり出土していない。58は磨石である。全体を磨石として使用しているようであるが、破損しているために全体的なことはわからない。石質は溶結凝灰岩である。59は磨石・敲石両方に使用したようである。石質は安山岩である。

礫　器

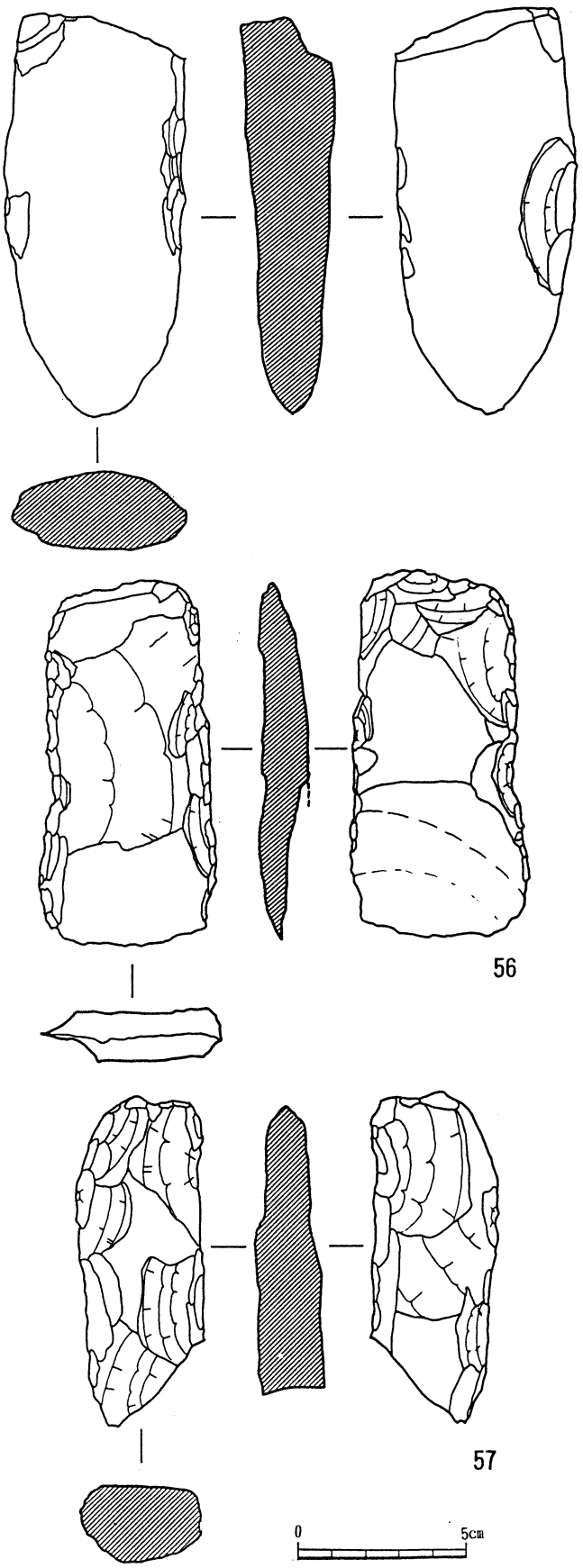
60～64は礫器の類である。60は内面に刃部がみられるが、他のものは片面だけに刃部がついている。石質は64は粘板岩であるが、他のものはホルンフェルスである。

石　皿

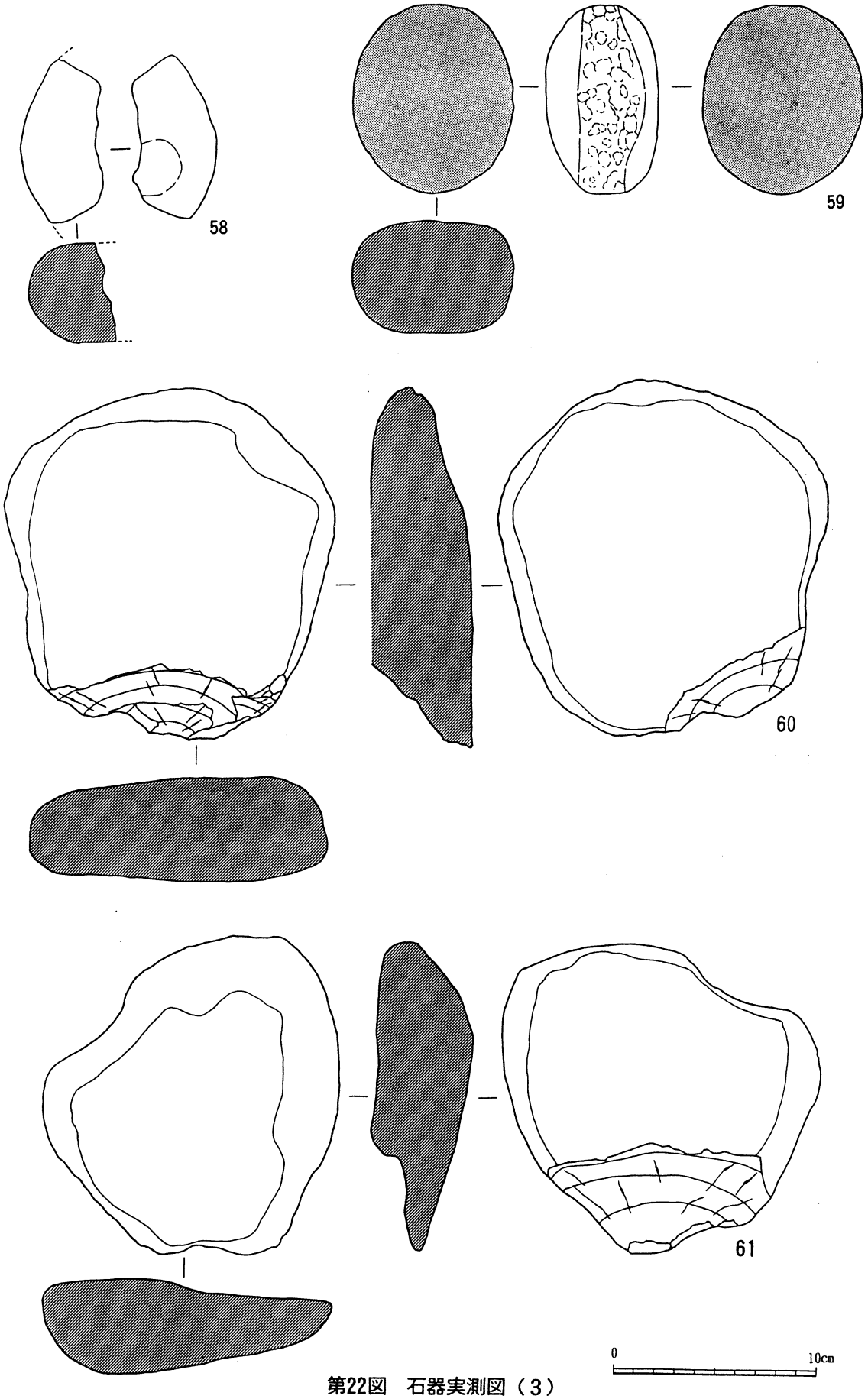
65～67は石皿である。65・66は花崗岩で、67は溶結凝灰岩である。いづれも磨面は認められるが、平坦に近い。両面を使用しているものはなかった。



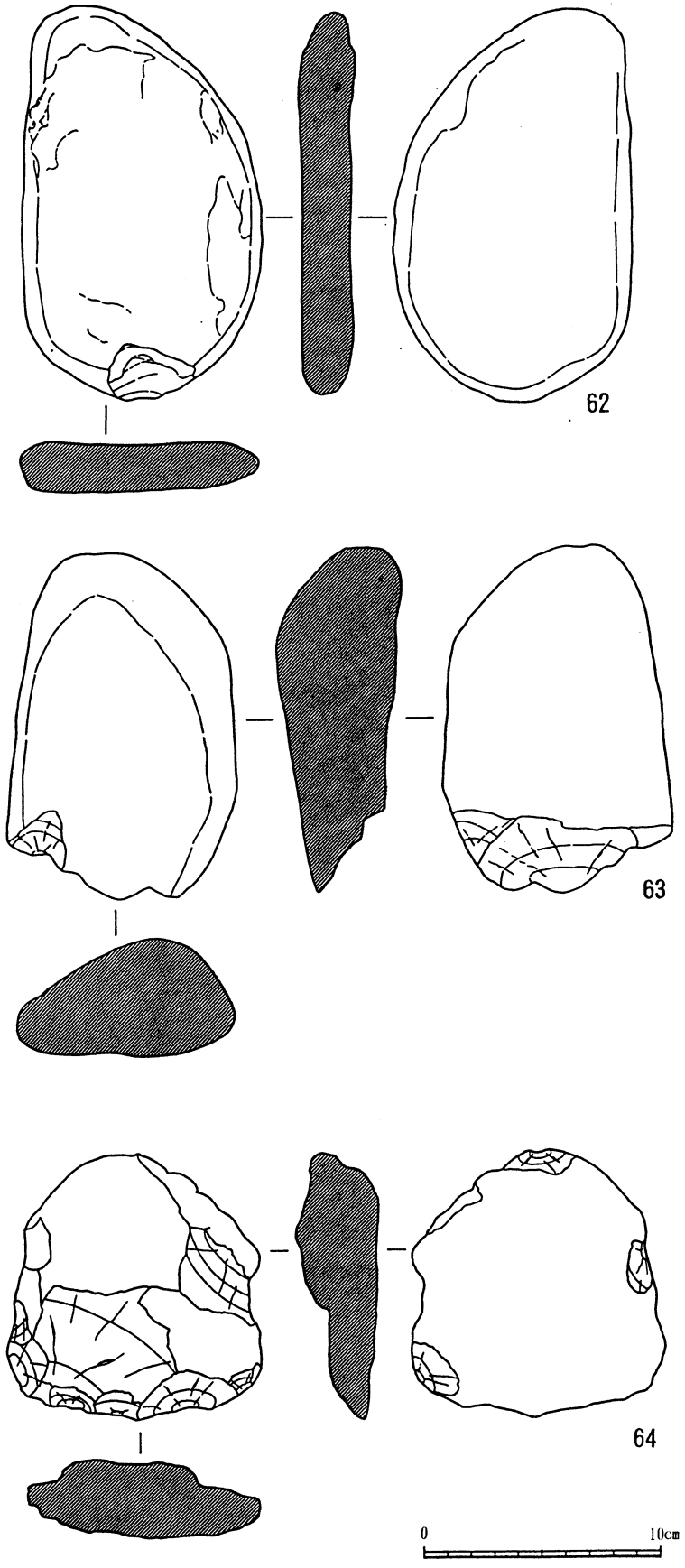
第20図　石器実測図（１）



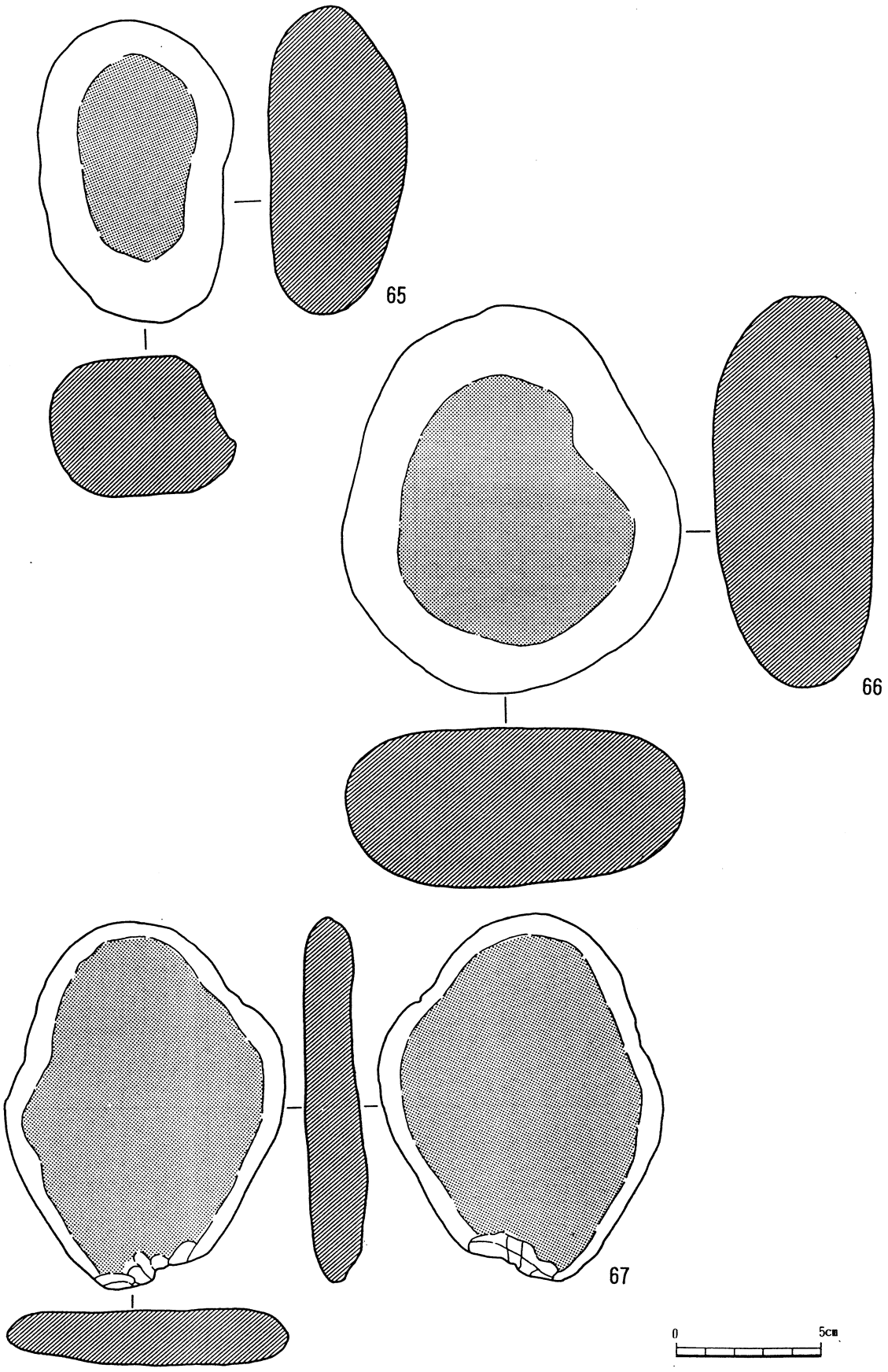
第21図　石器実測図（２）



第22図　石器実測図（3）



第23図　石器実測図（４）



第24図　石器実測図（５）

第4表　V層出土石器観察表

挿図番号	番号	区	層	器種	石材	長さ cm	巾 cm	厚さ cm	重量 g	観察所見
第20図	46		表土	石鏃	黒曜石	1.9	1.4	0.2	0.51	
	47		〃	〃	〃	1.7	1.5	0.3	0..5	姫島？
	48		〃	剥片	チャート	1.9	2.0	0.7	3.47	
	49	B−5	V	〃	〃	5.6	2.0	0.9	9.65	
	50	A−5	〃	〃	黒曜石	1.8	0.9	0.2	0.32	
	51	D−7	〃	〃	粘板岩	3.5	10.5	1.2	40.42	
	52	B−5	〃	石斧	ホルンフェルス	9.0	5.3	1.4	105.68	
	53	C−5	〃	〃	〃	11.0	3.3	1.3	76.39	
	54	D−7	〃	〃	〃	5.3	3.5	0.8	18.39	
第21図	55	B−5	〃	〃	〃	12.2	5.4	2.7	268.92	
	56	B−6	〃	〃	〃	11.1	4.8	1.4	137.30	
	57	C−5	〃	〃	〃	10.2	3.8	2.0	118.89	
第22図	58	〃	〃	磨石	溶結凝灰岩	8.4	3.8	5.0	248.69	
	59	C−6	〃	磨石・敲石	安山岩	9.5	8.0	5.6	590.0	
	60	A−4	〃	礫器	ホルンフェルス	17.8	16.5	5.4	211.5	
	61	B−4	〃	〃	〃	16.6	14.4	4.5	1,300	
第23図	62	D−6	〃	〃	〃	16.8	10.0	2.0	660	
	63	B−5	〃	〃	〃	14.5	9.3	5.2	890	
	64	C−4	〃	〃	粘板岩	11.3	10.7	3.4	460	
第24図	65	D−6	〃	石皿	花崗岩	20.8	13.4	9.3	3,730	
	66	C−6	〃	〃	〃	26.9	23.0	10.6	10,150	
	67	C−7	〃	〃	溶結凝灰岩	25.1	19.5	4.0	2,000	

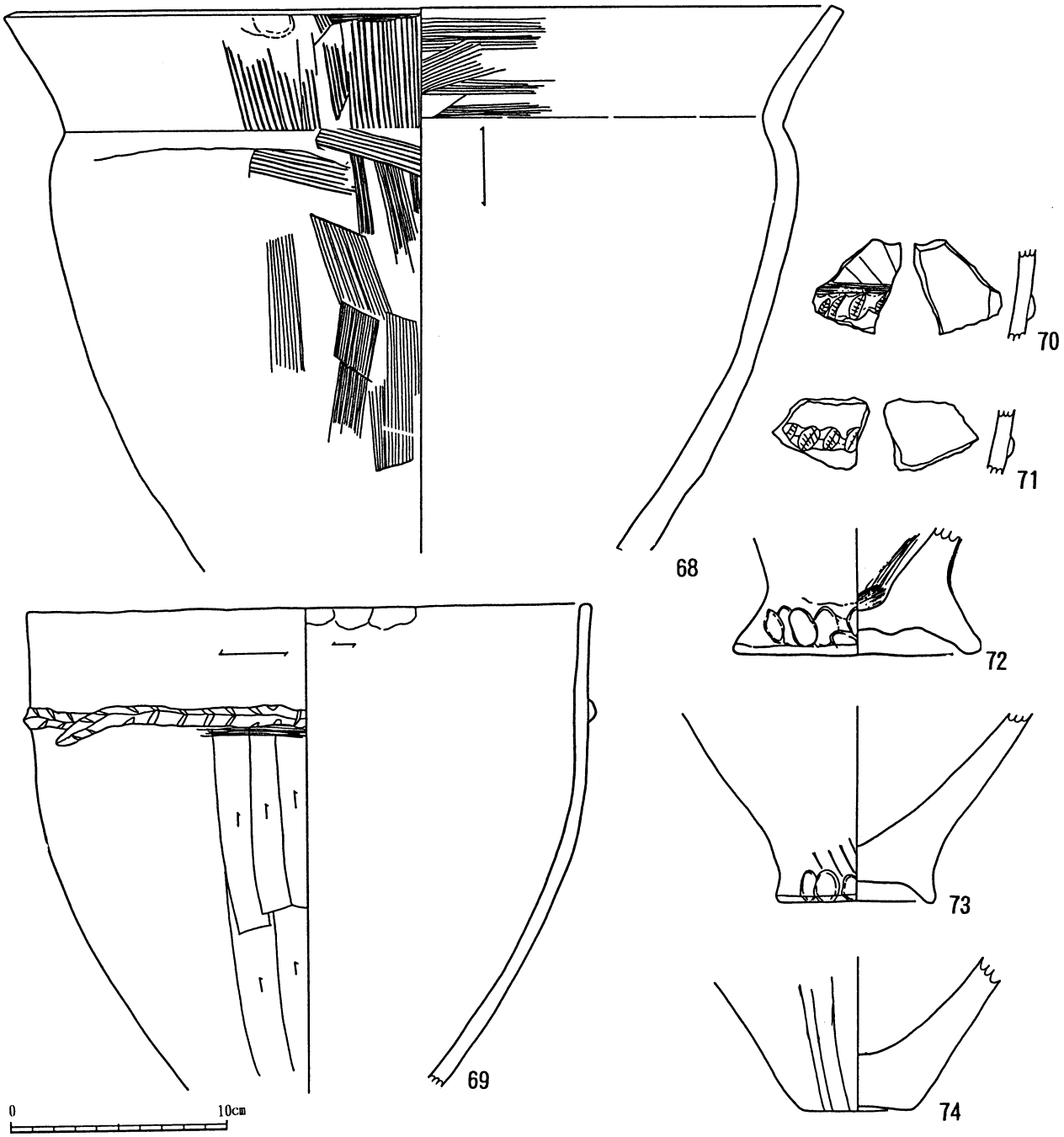
第VI章　古墳時代の調査

第1節　調査の概要

古墳時代の遺物包含層である黒色腐植土は、調査区域の北側、A－2～6区で認められたが、その他の区域は、近世以降の耕作等によって削平を受けており、破壊されていた。

遺物は、約133点の成川式土器の破片が出土し、特にA－5区からは甕形土器の口縁部から体部までが、2個体分まとまって出土した。

しかしA－2～6区の地形は急な斜面であり、Ⅱ層の黒色腐植土は厚く堆積していたことなどから、これらの遺物は流れ込みの可能性も考えられる。



第25図　Ⅱ層出土土器実測図

第2節　出土遺物（第25図　68〜74）

古墳時代の遺物は、成川式土器が出土したが、ほとんどが小片で図化できるものは少なく、図化したものはすべてA−5区より出土している。

68・69は甕形土器で、A−5区から2個体分まとまって出土した。どちらも底部は接合する個体がなかった。68は復元口径38.4cmを計る。胴部はわずかに張り、しまった頸部から口縁部が外反するもので、端部は平坦におさめる。外面の調整は、口縁部上位は横ナデ、頸部から口縁部にかけては板状施文具によるカキ上げ調整、胴部はハケ目調整が施される。内面は、ナデ調整が施される。69は復元口径26cmを計る。胴部は底部から直線的に伸びるものと思われ、胴部は張らず、口縁部はやや内湾する。頸部には箆状工具で貼り付けられた突帯が1条巡っている。内外面の調整は同じで、板状工具によるナデ調整が施されている。70・71は甕形土器の胴部と思われるもので、どちらも頸部に刻目突帯を巡らす。72・73は甕型土器の底部で、脚台外部は指によるナデ調整が施されている。74は鉢形土器の底部と思われるものである。

第5表　II層出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	出土区	層	胎　土	焼　成	色　調	外面調整	内面調整	備　考
第25図	68	A−5	II	石英，長石，角閃石	良　好	茶褐色	ナデ・ハケ目	ナ　デ	
	69	〃	II	〃	〃	〃	ナ　デ	〃	
	70	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃	刻目突帯
	71	〃	III	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	72	〃	II	〃	〃	〃	指ナデ	〃	
	73	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃	
	74	〃	III	〃	〃	〃	ナ　デ	ナ　デ	

第Ⅶ章　ま　と　め

西丸尾Ｂ遺跡においては、旧石器時代・縄文時代早期・古墳時代の３時代の遺物の出土をみた。全体的に遺物・遺構の数は多いとは言い難い。その中で、遺物の数がいちばん多く出土したのが縄文時代早期であった。

旧石器時代

旧石器時代の遺物・遺構は出土したものが少なかった。遺構としては、土抗が１基出土したが、埋土内に遺物は存在しなかったため性格などはわからない。

遺物についても図化できるものも少なかった。旧石器時代においては細石器文化とナイフ形文化の２時期あることはよくしられているが、本遺跡においては土層から考えれば細石器文化に所属すると考えられるが、明確な資料は出土しなかった。

確認調査の項でもふれたが、旧石器時代の中心は遺跡の東側に存在するのではないかと考えられる。

縄文時代早期

本遺跡の中心をなす時期であると考えられるが、遺構としては集石が２基出土しただけであった２基の集石は供に掘り込みはなかった。使用した石の数は違いがみられた。

土器はⅠ～Ⅲ類に分類できた。

Ⅰ類土器は、口縁部に貝殻原縁又は篦状工具により連続した刺突文が施される円筒形の平底を呈する土器である。

前平式土器に比定される土器である。

Ⅱ類土器は，１個体分出土した。バケツ状の形をなし、外面は貝殻条痕状に施され、口縁部には貝殻腹縁による刺突文が施されている。

石坂式土器に比定される。

Ⅲ類土器は、胴部に貝殻腹縁による刺突文が施されている。出土数かせ少なく器形ははっきりしない。

文様から下剥峯タイプの土器に比定できるのではないかと考えられる。

土器は、Ⅰ類土器の出土数がⅡ・Ⅲ類土器に比べ非常に多いことから、Ⅰ類土器が本遺跡の中心をなすのではないかと思われる。

石器は、土器に比べ数は少ない。石鏃・石斧・礫器・石皿・磨石等が出土しているが、石鏃の中には大分県の姫島産の黒曜石ではないかと思われるものをあった。但し、表採品の為時期が判断できなかった。他に出土した石器から調理具・解体の道具などの利用が考えられる。

古墳時代

古墳時代の包含層である黒色土は遺跡の北側にわずかに残っていた。他の部分は削平をうけて残存していなかった。包含層の残りが悪いため遺跡の性格についてははっきりわからない。

遺物は甕形土器と鉢形土器が出土している。遺構の出土はなかった。

参考文献

鹿児島県教育委員会　1992　『榎崎Ａ遺跡』　鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（63）

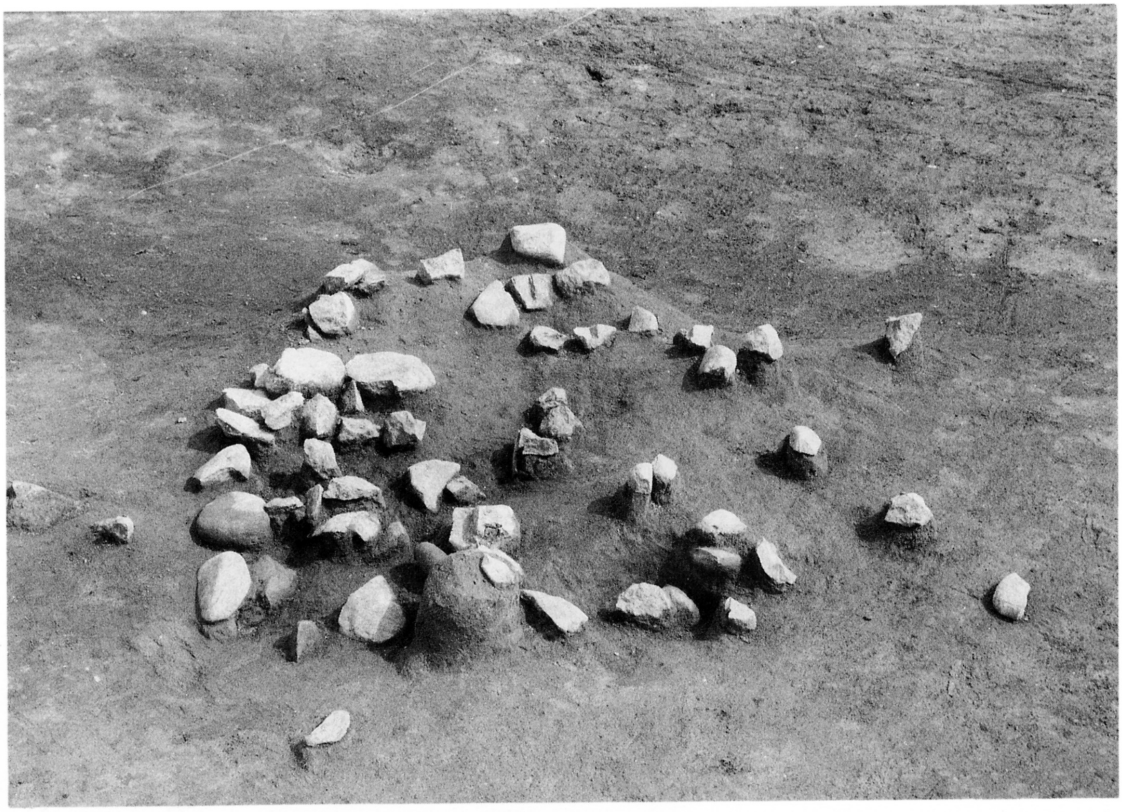
鹿児島県教育委員会　1992　『西尾丸遺跡』　鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（64）

鹿児島県立埋蔵文化財センター　1993　『榎崎Ｂ遺跡』　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（４）

図版1

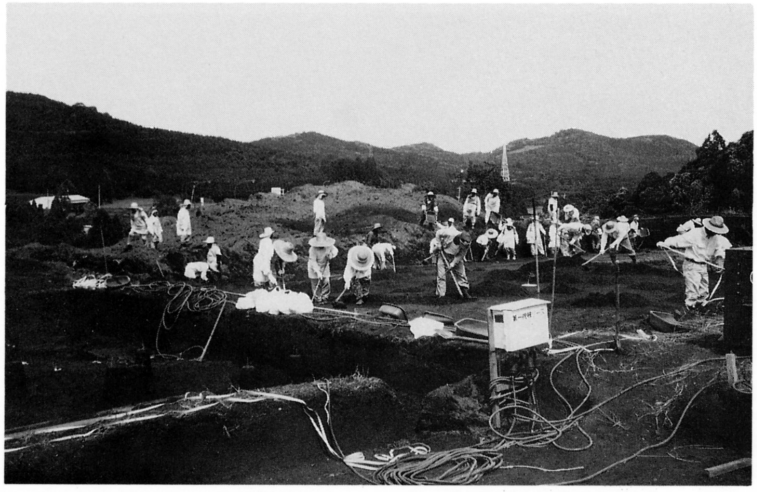
発掘調査現場風景

V層土器出土状況

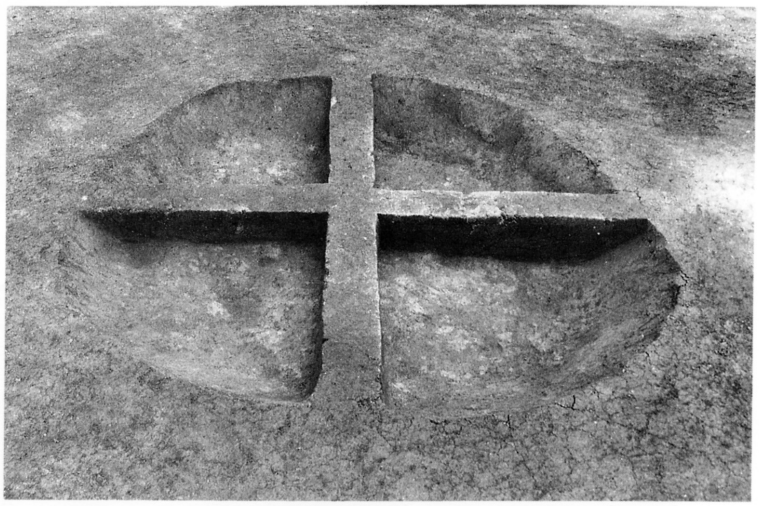


集石遺構検出状況

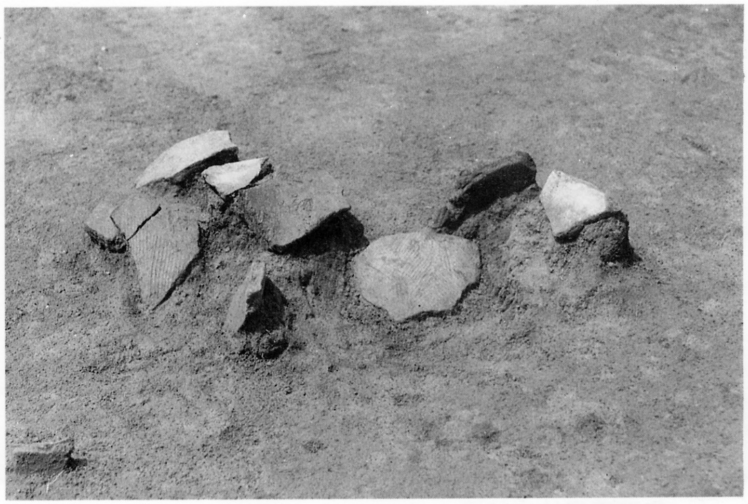
図版３



作業風景



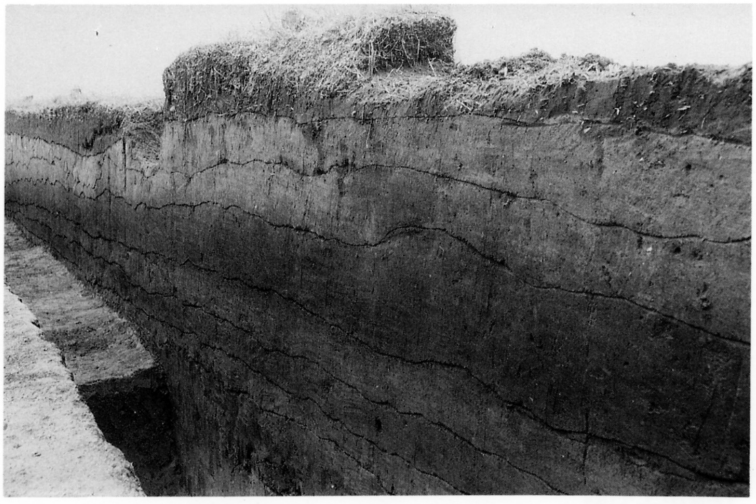
Ⅶ層土坑



Ⅴ層土器出土状況

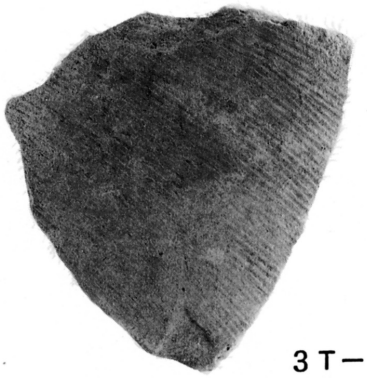
集石出土状況

土層断面A－5区



土層断面B－5区

図版5



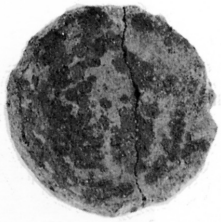
3Tー∨層

3Tー∨層

5Tー∨層

6Tー∨層

4Tー∨層



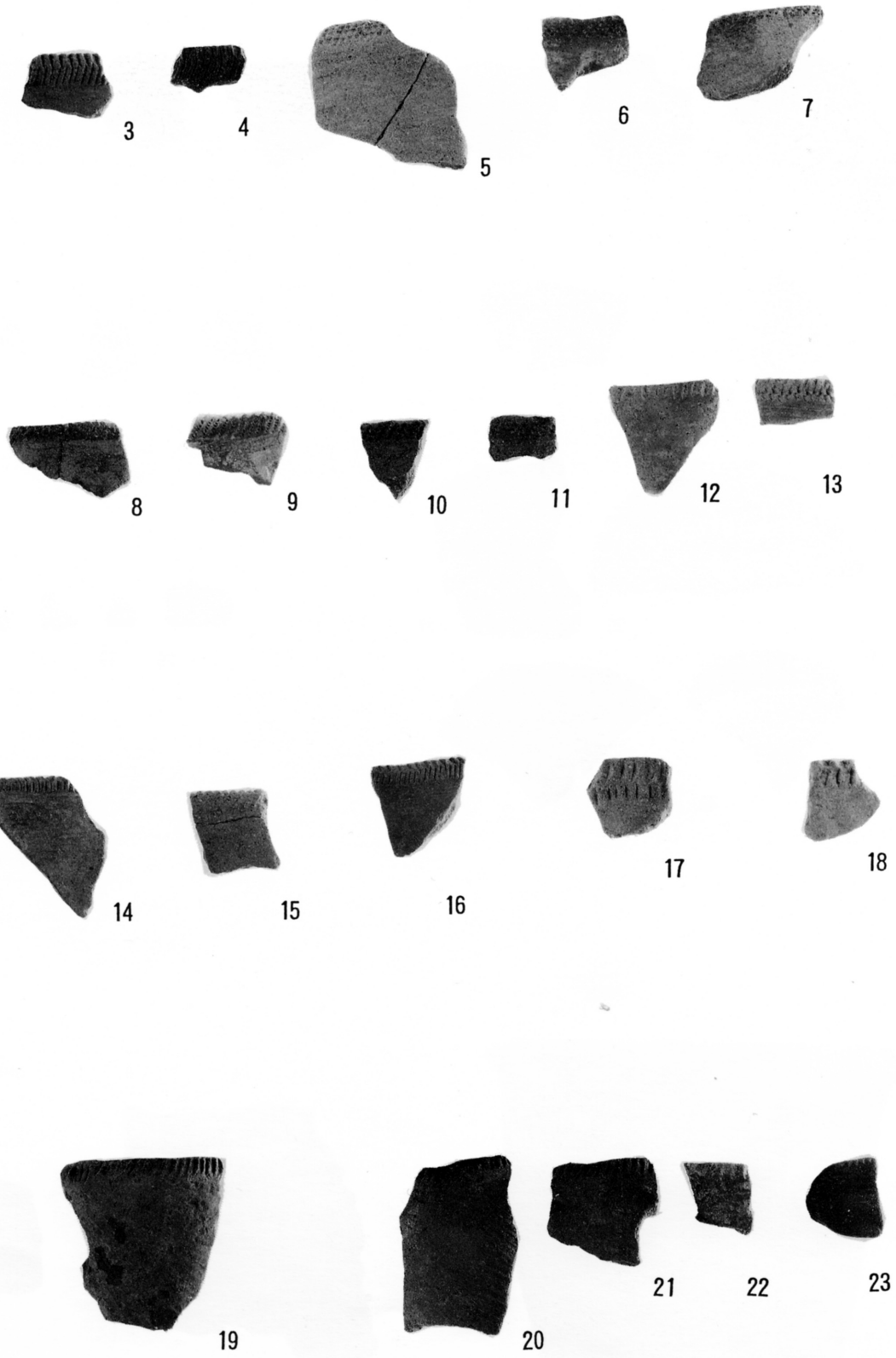
5Tー∨層

トレンチ内出土土器・石器

1

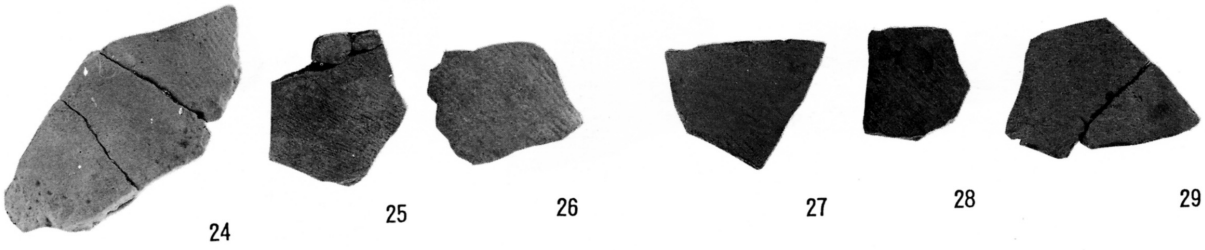
2

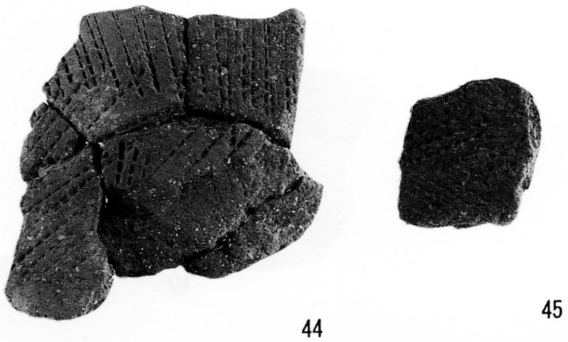
Ⅶ層出土石器



V層出土土器(1)

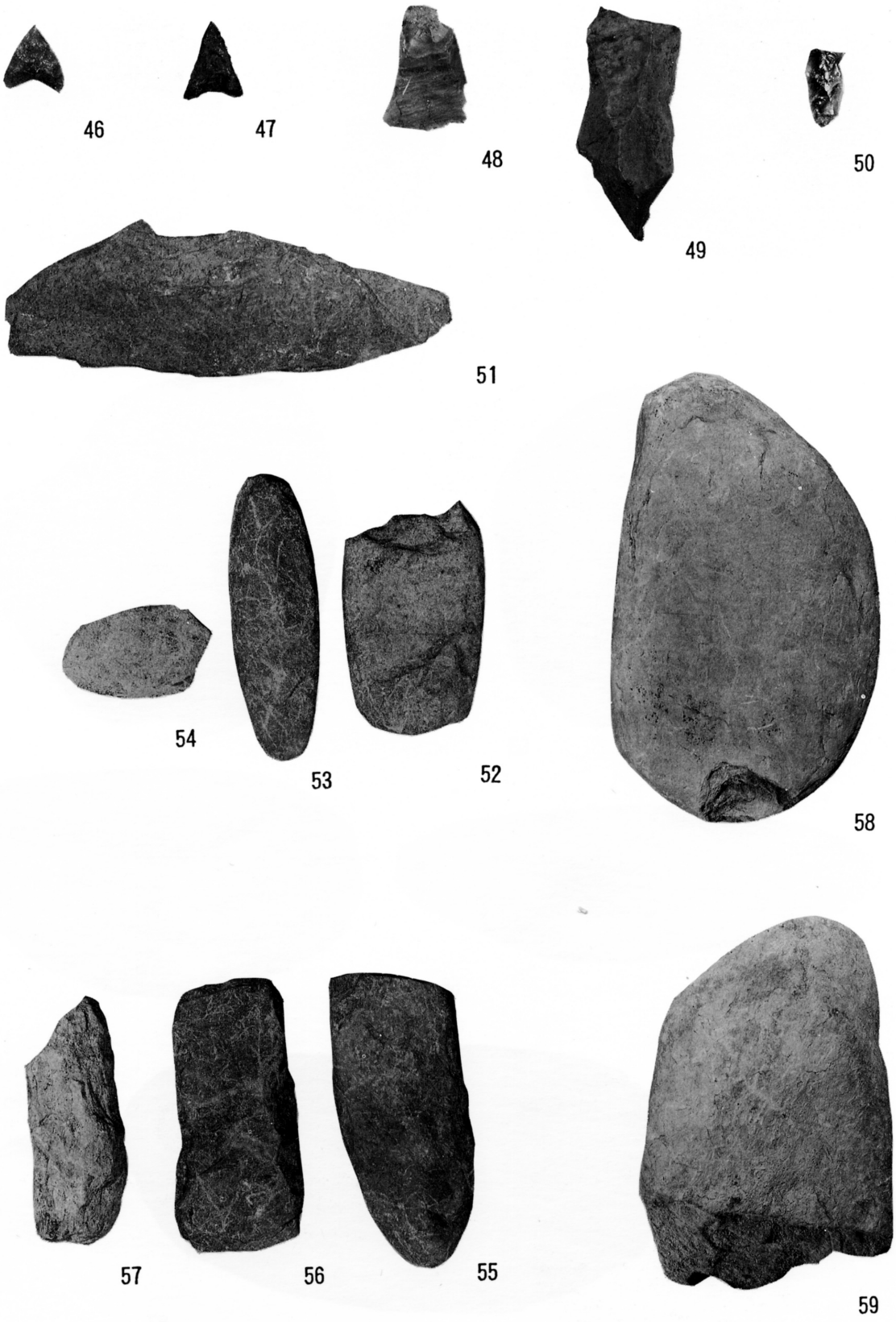
図版7





43

V層出土土器(2)



V層出土土器(1)

図版9

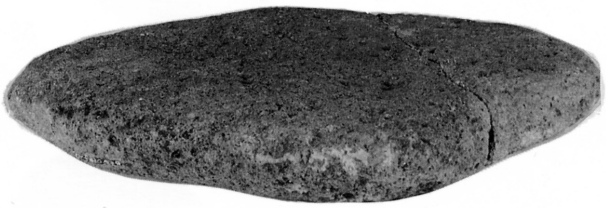
60

61

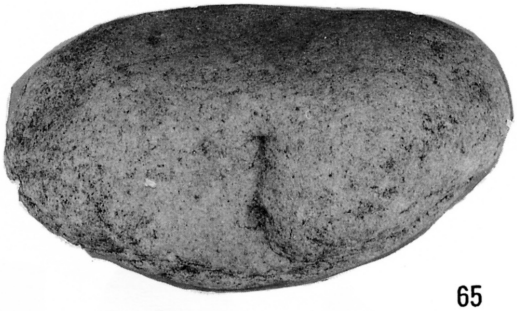
62

63

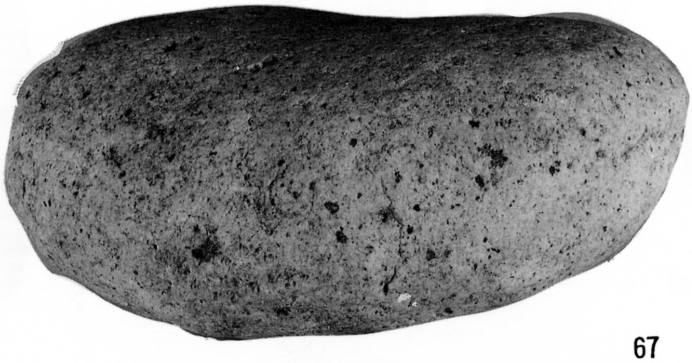
64



66



65



67

V層出土土器(2)

68

69

70

71

72

73

74

II層出土土器

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（9）

西　丸　尾　B　遺　跡

１９９４年3月

発　行　鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-56 鹿児島県姶良郡姶良町平松6252番地

印　刷　アルプス印刷有限会社

〒891-01　鹿児島市星ヶ峯２－18－12

ＴＥＬ（0992）７５－２９９５